

授業科目名	人間文化学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山伸隆, 樹下文隆, 丸山浩明, 嶋本文雄, 杉山寿美		
研究室の場所	広島キャンパス 1924・1911・1712・1426・1626		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程にしたがって、一人の教員が3回の授業を講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	必修
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	(秋山) 供給(タテマツリモノ), 接待; (樹下) 儀式・儀礼, 宴会; (丸山) ライスロード, シルクロード, ペーパーロード; (嶋本); (杉山) 健康, 美味しさ, 和食		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、人間文化学専攻の専攻共通科目である。言語文化・社会文化・栄養科学・健康管理科学の4分野に所属する院生に、人間文化学専攻としての多角的な視点を身に付けさせるため、必修科目としている。		
授業の内容	(秋山) 「供給」(タテマツリモノ) という語を手がかりとして、日本的接待の伝統について考える。 (樹下) 年中行事や冠婚葬祭などの儀式・儀礼の場での「宴会」を取り上げ、日本の食文化について考える。 (丸山) 人間を取り巻く環境を衣食住から考える。稲、絹、紙の文化をロード論の視点から確認する。 (嶋本) (杉山) 健康と美味しさから、人が食べることの意味を考える。		
成績評価の方法	各担当教員毎に課すレポートによって評価する。レポートの課題、提出期限、分量等については、各担当教員が指示する。期末試験は実施しない。		
テキスト	共通のテキストは使用しない。各教員が適宜プリントを配布する。参考文献は、担当教員が指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生活文化史特論		
担当教員氏名(助手氏名)	樹下文隆、鈴木康之、小平直行		
研究室の場所	広島キャンパス 樹下 (1911) (電話: 9965) 小平 (1826) 鈴木 (1912)		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義形式および演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	(樹下) 酒、茶、菓子 (鈴木) 儀礼・宴会、日常的世界、非日常的世界、ハレ、ケ (小平) コンドラチェフの長期波動、フォード主義的蓄積体制、「グローバリゼーション」		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、言語文化・社会文化・栄養科学・健康管理科学の4分野に所属する院生に、人間文化学専攻としての、多角的な視点を身に付けさせるための専攻共通科目である。		
授業の内容	(樹下) 酒・茶・菓子などの嗜好食品は、現代人にとって日常生活に必須の存在といえる。嗜好食品が日本文化史の上でどのような存在であったのか、文学作品や歴史記録に登場する酒・茶・菓子の記述をたどることで、日本の食文化史を考える。 (鈴木) 入学式・卒業式や成人式、忘年会や新年会。私たちの生活のなかではさまざまな儀礼や宴会が繰り広げられている。こうした儀礼・宴会の果たす役割や意味を、社会的・文化的・歴史的な視点から考える。 (小平) 20世紀後半の先進工業国のlifestyle (生活文化) は、自動車などの耐久消費財の大量生産・大量消費(・大量消費)によって特徴づけられるであろう。本講ではその興隆と、1990年頃から生起つつあるその転換について論じる。		
成績評価の方法	授業時間中の口頭報告およびレポートによって評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。教員が適宜プリントを配布し、参考文献を指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	必修科目である人間文化学特論とは別に、生活文化史特論または国際保健・栄養協力論を選択し履修しなければならない。		

授業科目名	国際保健・栄養協力論		
担当教員氏名(助手氏名)	三好 美紀 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	集中講義		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	国際保健, 国際栄養, 国際協力, プライマリー・ヘルスケア, 母子保健, 感染症, 栄養不良のタイプと要因, 微量栄養素欠乏症, 栄養転換と肥満, 保健・栄養プログラムに関連する因子(ジェンダー, 地域開発, 文化人類学等), 援助機関の動向		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 開発途上国の健康・栄養格差とその要因を個人・世帯・地域・国・地球レベルでとらえ, それぞれのレベルに応じた対策を考えられる視野が持てるようになることを目標とする。そのため, 「社会・環境と健康」, 「公衆栄養学」, 「応用栄養学」, 「栄養教育論」等の学習成果をふまえ, 特に開発途上国の現場を想定し, 実態把握と要因分析, 対策づくりとその実施・運営, 評価のための基本的な考え方や, 理論・ツールを学習する。本科目は栄養科学に焦点を当てているが, 社会科学的分野における学習成果を生かし, その応用力を養う上でも重要な科目として位置づけられる。		
授業の内容	本科目では, 開発途上国の保健・栄養格差や, 同分野における国際協力の現状と課題について分析する。様々な地域でそれぞれ独自の文化と生活の中で生きている人間の尊厳を理解することが, 国際協力の原点であることを確認し, 開発途上国における保健・栄養協力のあるべき姿について考える。また, 健康・栄養問題の改善には, 狭い意味での保健分野を超えて, 教育, 福祉, 農業, 経済等, 社会全般にわたる他分野との連携が必要なことや, 開発途上国への協力にあたっては特に, 地域・社会開発のコンテキストの中で, 当事者の参加やエンパワメントを重視する必要があることを, 栄養・食を題材にして学ぶ。さらに, 他国との比較や世界の中での位置づけにより, 「日本の健康や栄養・食」の特徴を理解する機会とする。		
成績評価の方法	平常点(出席等)30%, 課題レポート(講義時間内・宿題)30%, グループワーク(最終日・必須)40%の割合で評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。適時, プリント資料を配布する。		
参考文献	随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	開発途上国, 国際協力というと日本に暮らす自分達とは直接関係がないと思う学生もいるかもしれない。しかし実際には途上国の人々の暮らしと私たちの日常生活とは深く関係している。履修者にはそのことに気づき, 問題の解決には多様な関わり方があることを知り, それぞれが実践できることを具体的にみつけるきっかけにしていきたい。		

授業科目名	国際文化論		
担当教員氏名(助手氏名)	天野みゆき, 岡本弘道, 柳川順子		
研究室の場所	広島キャンパス	1816研究室(天野)	1714研究室(岡本) 1713研究室(柳川)
オフィスアワー			
授業の形式・方式	オムニバス方式。対面による講義と受講生による発表を併用。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	天野：旅行記、美意識とアイデンティティ、異文化理解 岡本：琉球の文化、国際交流、外交使節の往来、周縁性、“伝統”の形成 柳川：漢字文化圏、公用語としての漢詩文、朝鮮通信使、中世日本		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	言語文化研究分野・社会文化研究分野の共通科目。選択科目ではあるが、事実上、これらの分野を専攻する院生は必ず履修するものと位置づけられている。 異文化に対して、人はどのような対応をするのかという問題について、多角的な視点から考察できる思考力を身につけることを目標とする。		
授業の内容	多様な文化の特徴と共通性について、取り上げる地域・時代・対象を変えながら多面的に検討する。 天野：他国を訪れた日本人や欧米人による旅行記を通して、美意識とアイデンティティ、異文化理解について考える。 岡本：近世期の琉球王国における文化交渉と変容のあり方を題材に、国際交流を通じて「琉球」の伝統文化がどのように構築されていったのかを検討する。 柳川：かつて東アジア一帯の公用語であった漢詩文。この古典語による朝鮮通信使の紀行文を読み、中世日本の有り様の一端を知る。		
成績評価の方法	レポートによって評価する。		
テキスト	講義中に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	研究方法論		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下, 杉山, 藤井, 森脇, 嶋本, 菅原, 福場		
研究室の場所	広島キャンパス 1535・1626・1523・1442・1426・1516・1623研究室		
オフィスアワー	本カタログに各担当教員が記載している内容に従うこと。		
授業の形式・方式	対面授業と演習形式。主に下記の授業内容に基づいてレジュメを作成し講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、討論に加わるのが義務づけられる。各担当教員の講義場所は、各教員の指示に従うこと。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	動物性食品, 再現性, 免疫学的分析法, 単クローン抗体, 公衆栄養マネジメント, 食環境, Protein Purification and Analysis, Sensory Analysis, EBN, 統計, 疫学, トレーニング, 運動, 消化吸収, 超音波法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	栄養と健康に関わる研究領域で最も基本となる研究の方法論(機器分析も含めて)を学び、今後の研究の領域が広がるように期待すると共に、関連他領域の論文が理解できる一助とする。具体的には、7人の教員が講義と演習形式を併用して行う。		
授業の内容	<p>主要なテーマとして次の項目を取り上げる。</p> <p>栢下：  杉山：調理科学研究における試料調製  藤井：単クローン抗体等を用いた免疫学的解析法  森脇：公衆栄養マネジメントに基づく研究について  嶋本：本学における研究倫理と人体病理学における分子病理的方法について  菅原：Basic Methods in Protein Purification and Analysis  福場：健康科学情報の信憑性の判断と情報検索の方法について</p>		
成績評価の方法	担当教員が課す課題に対する「レポート」並びに授業への出席・参加状況(議論等)を総合的に評価する。		
テキスト	各担当教員からテキストとしてレジュメ等が配布される。		
参考文献	各担当教員が授業の中で紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	健康科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小林 敏生 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。集中で授業を実施する予定である。日程は最初の授業時に受講者と協議の上で決定する。1回の講義につき、授業時間6時間(5回)を想定した授業を行う。毎回課題を提示し、次回の授業時に一人ずつ課題の発表を行う。学生は、授業に出席し、課題に関するレポートを作成・提出し発表および議論を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスプロモーション, 生活習慣病, 環境と健康, 健康管理		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	宿主, 病因, 環境, 食生活を含むライフスタイルの面から, 疾病予防および健康保持・増進の概念を理解する。具体的には国内外において, 環境と健康および食生活と健康との関連について, 様々な物理化学的環境因子やストレスなどの心理社会的環境因子が健康に及ぼす影響, あるいは運動・栄養・休養などのライフスタイルが健康に及ぼす影響について理解を深める。また, 最新の文献や論文を講読し, 分析討議を行うことで, 修士論文の作成ならびに将来の研究能力, さらに保健・医療職としての実践活動能力を修得する。カリキュラム上の位置づけとしては, 栄養科学および健康管理科学の両分野に共通する授業となっている。		
授業の内容	国内外の地域, 職域などにおける環境と健康およびライフスタイルと健康との関連について, 様々な物理化学的環境因子やストレスなどの心理社会的環境因子が健康に及ぼす影響, あるいは運動・栄養・休養などのライフスタイルが健康に及ぼす影響, さらに健康の保持・増進のための健康管理や保健活動(食生活の改善も含む)のあり方を学習し, 学習内容の発表と討議を行う。さらに環境の維持, 疾病予防および健康保持・増進に関する最新の研究や実践に関する国内外の文献, あるいは栄養疫学に関する論文を講読し, 発表および討議を行う。各自の発表事項についてはレポートとしてまとめて提出する。		
成績評価の方法	出席50%, 課題発表20%、レポート提出20%、討論への参加10%の割合で評価する。レポートの提出期限は, 学期末とする。レポート用紙(A4)は各自が準備する。		
テキスト			
参考文献	シンプル衛生公衆衛生学2015 南江堂		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	言語学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	今田 良信 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主として講義形式で実施する。学生は、授業に出席し、試験を受けることが義務づけられる。また、学生には授業中の積極的な質問を要望したい。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	言語, 言語学, 対照言語学, 対照分析, 言語類型論, 文化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本授業は、言語学の射程とその基本的枠組み・基本的概念を踏まえた上で、言語から見たものの捉え方・発想法を学び、対照分析の研究方法などを習得し、この領域での論文作成の基盤を構築することを目標とする。		
授業の内容	言語学は、過去・現在の人間のあらゆる言語を対象とし、その姿や働き、メカニズムを科学的に分析・研究する広範な学問である。本授業は、履修学生の言語学についての学習状況にもよるが、原則としては初学者も想定して、言語学の射程とその基本的枠組み・基本的概念を踏まえた上で、日本語・英語・フランス語・ドイツ語などの具体的な事例を通じて、「言語による外界の範疇化」、「偽の友達」、「言語と文化」、「借用語」などの問題にスポットを当てて講義する。		
成績評価の方法	期末試験70%、出席点30%の割合で評価する。試験は指定された教室(試験室)内で、配布プリントおよび自筆ノートは持ち込み可で実施する(他の人のノートのコピーは持ち込み不可)。期末試験は指定された試験日の授業時間(90分)内で実施する。		
テキスト	特定のテキストは使わず、プリントを適宜(無料)配布する。		
参考文献	参考文献リストを配布するほか、授業中にも適宜紹介するので、活用してもらいたい。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	言語学は、研究分野の射程が広く、様々な理論や仮説も多くあり、必然的に授業では選択的に取り扱わざるを得ない。授業で取り扱った事柄に関する疑問点や興味が湧いた点については、授業中に質問したり、配布資料などを手掛かりとして図書館や研究室に所蔵されている図書・辞典類を利用して自分で調べ、自発的に言語学の理解に努めてもらいたい。		

授業科目名	比較対照言語論		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	随時対応しますが、事前に連絡するようにしてください。		
授業の形式・方式	対面授業。講義を交えながら演習形式で行なう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	対照言語学、日本語、中国語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】 日本語・中国語の言語的違いについて知る。  【思考・判断】 日本語・中国語の言語的特徴とそれらの違いを指摘できる。  【関心・意欲】 日本語・中国語の言語的特徴や違いを討論できる。  【技能・表現】 1. 言語の違いについて学術的な議論ができる。  2. 対照言語学の学術的文献を批判的に読むことができる。  3. 学術的プレゼンテーションができる。  【態度】 母国語と他国の言語を共に尊重する態度を身につける。</p>		
授業の内容	<p>中国語を日本語と比較しながら、理解して身につけていく。  ①中国と中国語  ②中日言語の発音体系  ③中日言語の表記体系  ④中日言語の語彙体系  ⑤中日言語の文法体系  ⑥中日言語の表現体系</p>		
成績評価の方法	<p>1. 出席・授業参画 30%  2. レポート・プレゼンテーション 70%</p>		
テキスト	『中国語学概論』改訂版 王占華 一木達彦 苞山武義 編著 駿河台出版社 その他、事前配布する。		
参考文献	『中国語のすすめ』 鐘ヶ江信光 講談社現代新書		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	英語学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時。		
授業の形式・方式	講義形式。授業日程に従って実施する。学生は、授業に出席し、毎回の授業内容に関する予習と復習、レポート課題を提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	英語音声、日英語音声対照分析、音響音声学、調音音声学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>英語音声の体系と調音メカニズムについて知識を深めると同時に、日英語の分節素、超分節素の対照分析を、音響音声学および調音音声学の観点から行い、日本語音声との比較における英語音声の特徴を理解する。また、世界の言語音声の中における英語音声の位置を理解する。</p> <p>本科目は、大学院総合学術研究科人間文化学専攻の言語文化研究分野のうちの選択科目として位置付けられている。</p>		
授業の内容	<p>英語の母音、子音体系と、各音の調音、及びアクセント、リズム、イントネーションなどの超分節素の諸相について概観する。日本語音声の体系と調音、及び微分節素の特徴と比較対照することにより、日英両言語の音声の類似点、相違点についてまとめながら、英語音声の特徴を明らかにする。分析にあたっては、音声分析ソフトを使用しての音響音声学的手法も取り入れる。また、国際音声字母体系の中における英語各音の位置付けを行いながら、英語音声の特徴を世界の言語音との関係から把握する。また、英語の変種とその音声的特徴について言及する。</p>		
成績評価の方法	毎回の授業における発表と学期末レポート課題で評価する。課題、及び提出期限は授業時間中に指定する。成績評価は、単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。		
テキスト	Alan Cruttenden. Gimson's Pronunciation of English (Routledge)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って実施する。学生は、授業に出席し、毎回の授業内容に関する予習と復習、レポート課題を提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	英語イントネーション, アクセント, 日英語音声対照分析, 音響音声学, 調音音声学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英語のイントネーションについて、その構造分析と機能を理解し、実践への応用を行うことを目的とする。また、日英語のイントネーションの対照分析により、両言語のイントネーション、アクセント法の違いを理解すると共に、日本語話者の英語イントネーションの問題点とその解決方法を探る。本科目は、大学院総合学術研究科人間文化学専攻の言語文化研究分野のうちの選択科目として位置付けられている。		
授業の内容	英語のイントネーションについて、その構造分析と機能を詳しく分析する。適宜、音響分析を行うことにより、英語のイントネーションとアクセントの音響的特徴を把握する。日本語話者の英語のイントネーションについても英語話者との比較を行いながら、その特徴を分析する。 日英語のイントネーションやアクセント法を比較対照しながら、両言語音の特徴および日本語話者の発音による英語のイントネーションの特徴を探る。これらの分析を基に、日本人学習者を対象とした英語音声教育への応用に向けた考察を行う。		
成績評価の方法	毎回の授業での発表内容と学期末レポート課題で評価する。課題、及び提出期限は授業時間中に指定する。成績評価は、単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。		
テキスト	J. C. Wells. English Intonation: An Introduction. (Cambridge University Press)		
参考文献	適宜指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	船津 晶代		
研究室の場所	広島キャンパス 1813研究室		
オフィスアワー	随時。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って実施する。学生は、授業に出席し、毎回の授業内容に関する予習と復習、レポート課題を提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	日英語のアクセント・イントネーション, 超分節素, 強勢, 日英語対照音声学, 音響音声学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>日英語のアクセント, イントネーションなどの超分節素について, 音響分析を中心として行いながら, それらの特徴を把握する。日本語話者の発音によるこれら英語超分節素の様態について分析し, その特徴を探る。また, 日本人学習者を対象とした英語音声教育への応用を考える。</p> <p>本科目は, 大学院総合学術研究科人間文化学専攻の言語文化研究分野のうちの選択科目として位置付けられている。</p>		
授業の内容	<p>ストレス(強勢), アクセント, イントネーションなどの超分節素について, 日英語の音響分析を主に行い, 両言語の特徴を探る。また, 日本語話者の発音によるこれら英語超分節素の特徴を分析する。特に, 音調核の音響的特徴について, 英語話者と日本語話者による英語の発話をそれぞれ比較し, 両者の特徴と日本語話者の発音における問題点について考察する。これらの分析を基に, 日本人学習者を対象とした効果的なコミュニケーションを目指した英語音声教育への応用を考える。</p>		
成績評価の方法	<p>学期末レポート課題で評価する。課題、及び提出期限は授業時間中に指定する。成績評価は、単位認定に必要な授業出席回数を満たしていることが前提である。</p>		
テキスト	J. C. Wells. English Intonation: an Introduction. (Cambridge University Press)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	英語表現特論		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	輪読形式を基本とし、毎週指定の論文(あるいはテキストの1章)を読み、その内容について議論する。履修者は、指定の論文の内容について毎回まとめ、授業内で発表を行う。必要に応じて、講義も行なう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択, 高専免(英語)選択		
キーワード	英語教育学、第2言語習得、応用言語学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】1. 英語教育学・第2言語習得論・応用言語学の高度な専門知識を身につける</p> <p>【思考・判断】1. 英語教育や外国語習得に関する課題や問題点を指摘できる</p> <p>【関心・意欲】1. 英語教育や外国語習得の問題点について討議できる</p> <p>【技能・表現】1. 英語の習得という現象について学術的な議論ができる、2. 学術的文献を批判的に読むことができる、3. 学術的プレゼンテーションができる</p> <p>【態度】1. 英語教育や英語学習について客観的かつ論理的に思考できる</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》：言語文化研究分野の選択科目</p>		
授業の内容	英語教育学、第2言語習得論、応用言語学の分野の文献を毎回読み、その内容を理解すると共に、その内容に基づいて様々な学術的議論を行う。受講者は、文献の内容について毎回授業で発表する。		
成績評価の方法	<p>1. 授業参画20% (ただし、授業参画に大きな問題がある場合は単位が取得できません)</p> <p>2. 当番制による論文内容のプレゼンテーション40%</p> <p>3. 小レポート20%</p> <p>4. 最終レポート20%</p> <p>※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。</p>		
テキスト	受講者との相談でテキストを決定する。場合によっては英語表現研究Ⅰ・Ⅱで扱う分野のテキストを取り上げることも可とする。		
参考文献	Brown, H. D. (2007). Principles of language learning and teaching (5th ed.). Longman.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>【履修上のアドバイス】この授業は、英語教育学、第2言語習得論、応用言語学の様々な考え方に触れ、英語教育(英語学習)について理論的に考える視点を養成します。特に英語教員志望の方はお待ちしています。前提とするような知識はありませんが、毎週英語の論文を読み、順番にその内容についてプレゼンテーションをしてもらいますので、少なくともTOEFLで550点程度以上の高度な英語力が必要になります。</p> <p>【禁止事項】1)遅刻・飲食・私語・居眠り・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。2)教科書などを忘れたときは、始業までに各自の責任で当日の授業範囲のコピーを取っておいてください。</p>		

授業科目名	英語表現研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	輪読形式を基本とし、毎週指定の論文（あるいはテキストの1章）を読み、その内容について議論する。履修者は、指定の論文の内容について毎回まとめ、授業内で発表を行う。必要に応じて、講義も行なう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免（英語）選択, 高専免（英語）選択		
キーワード	言語学、英語学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】 1. 言語学・英語学の高度な専門知識を身につける  【思考・判断】 1. 英語の言語学的特徴について指摘できる  【関心・意欲】 1. 英語の言語的特徴について様々な観点から討議できる  【技能・表現】 1. 英語の構造や機能について学術的な議論ができる、2. 学術的文献を批判的に読むことができる、3. 学術的プレゼンテーションができる  【態度】 1. 英語の構造や機能について客観的かつ論理的に思考できる  《カリキュラム上の位置づけ》：言語文化研究分野の選択科目</p>		
授業の内容	言語学や英語学の分野の文献を毎回読み、その内容を理解すると共に、その内容に基づいて様々な学術的議論を行う。受講者は、文献の内容について授業で発表する。		
成績評価の方法	1. 授業参画20%（ただし、授業参画に大きな問題がある場合は単位が取得できません） 2. 当番制による論文内容のプレゼンテーション40% 3. 小レポート20% 4. 最終レポート20% ※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。		
テキスト	受講者との相談でテキストを決定する。場合によっては英語表現研究Ⅱ・英語表現特論で扱う分野のテキストを取り上げることも可とする。		
参考文献	Akmajian, A., et al. (2010). Linguistics: An Introduction to Language and Communication (6th ed.). The MIT Press.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	【履修上のアドバイス】この授業は、英語の構造や機能について理解を深めていきます。前提とするような知識はありませんが、毎週英語の論文を読み、順番にその内容についてプレゼンテーションをしてもらいますので、少なくともTOEFLで550点程度以上の高度な英語力が必要になります。 【禁止事項】 1) 遅刻・飲食・私語・居眠り・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。 2) 教科書などを忘れたときは、始業までに各自の責任で当日の授業範囲のコピーを取っておいてください。		

授業科目名	英語表現研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	西原 貴之		
研究室の場所	広島キャンパス 1815研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応しますが、事前に連絡してください。		
授業の形式・方式	輪読形式を基本とし、毎週指定の論文(あるいはテキストの1章)を読み、その内容について議論する。履修者は、指定の論文の内容について毎回まとめ、授業内で発表を行う。必要に応じて、講義も行なう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択, 高専免(英語)選択		
キーワード	英語文体論、英語文学作品の言語分析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>【知識・理解】1. 英語文体論の高度な専門知識を身につける  【思考・判断】1. 英語文学作品の言語的特徴や効果を指摘できる  【関心・意欲】1. 英語文学作品の言語的特徴や効果について討議できる  【技能・表現】1. 英語文学作品の言語構造や効果について学術的議論ができる、2. 学術的文献を批判的に読むことができる、3. 学術的プレゼンテーションができる  【態度】1. 英語文学作品の言語的特徴や効果について客観的かつ論理的に思考できる</p> <p>《カリキュラム上の位置づけ》：言語文化研究分野の選択科目</p>		
授業の内容	英語文体論の分野の文献を毎回読み、その内容を理解すると共に、その内容に基づいて様々な学術的議論を行う。受講者は、文献の内容について授業で発表する。		
成績評価の方法	1. 授業参画20% (ただし、授業参画に大きな問題がある場合は単位が取得できません) 2. 当番制による論文内容のプレゼンテーション40% 3. 小レポート20% 4. 最終レポート20% ※30分以上の遅刻は欠席とみなします。30分以内の遅刻は2回で1回の欠席とみなします。		
テキスト	受講者との相談でテキストを決定する。場合によっては英語表現研究Ⅰ・英語表現特論で扱う分野のテキストを取り上げることも可とする。		
参考文献	Short, M. (1996). Exploring the language of poems, plays and prose. Longman.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>【履修上のアドバイス】この授業は、英語文体論という研究分野の成果について学習し、文学作品の言語構造についての理解を深めていきます。前提とするような知識はありませんが、毎週英語の論文を読み、順番にその内容についてプレゼンテーションをしますので、少なくともTOEFLで550点程度以上の高度な英語力が必要になります。</p> <p>【禁止事項】1) 遅刻・飲食・私語・居眠り・携帯電話使用は厳禁します。違反すれば単位は与えられない場合があります。2) 教科書などを忘れたときは、始業までに各自の責任で当日の授業範囲のコピーを取っておいてください。</p>		

授業科目名	英語教育学特論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	本岡 直子		
研究室の場所	三原キャンパス 3506研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択, 高専免(英語)選択		
キーワード	指導法, 理論,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は, 英語教育学において必要とされる理論に裏づけられた指導法を深めるために, 理論と洞察を深める。		
授業の内容	英語教育学における主要なテーマについて, 知識を整理し, 疑問点や課題となっている点に関して議論する。		
成績評価の方法	授業への参加度(30%) 発表(20%) レポート(50%)		
テキスト	特に指定しない。		
参考文献	随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英語教育学特論B		
担当教員氏名(助手氏名)	馬本 勉		
研究室の場所	庄原キャンパス2401		
オフィスアワー	相談に応じます		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択, 高専免(英語)選択		
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教育学の一分野である「英語教育史研究」への理解を深める。</li> <li>・英語教育理論や英語教育史の知見を教育実践へ応用できる。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幕末・明治期から現代に至る日本の英語教育史を概観し、英語教育実践の諸問題を歴史的・理論的背景を踏まえて考察する。</li> <li>・史資料調査の方法や、教育実践への応用についてディスカッションを重ねる。</li> <li>・主なテーマは次の通り。</li> <li>1) 英語教育と社会(英語教育目的論, 学習指導要領, 入学試験と英語, 国際英語論)</li> <li>2) 英語教材論(発音と視聴覚機器, 語彙と辞書, 学習英文法と参考書)</li> <li>3) 教授法の変遷(文法訳読法, オーディオリンガル法, コミュニケーション教授法)</li> <li>4) 英語のスキル(リスニング, スピーキング, リーディング, ライティング)</li> <li>5) 英語教具論(伝統的教具, ICTの活用)</li> </ul>		
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中のプレゼンテーション及びディスカッションへの参加度(50%)</li> <li>・期末レポート(50%)</li> </ul>		
テキスト	オリジナル教材をプリントし、配布する。		
参考文献	江利川春雄『日本人は英語をどう学んできたか』		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	情報収集や議論を深めるためにウェブサイトを活用します。 <a href="http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~umamoto/">http://www.pu-hiroshima.ac.jp/~umamoto/</a>		



授業科目名	中国語学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。また、研究室にいれば随時対応する。		
授業の形式・方式	対面授業で、講義と演習の形式を併用して行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日中・中日翻訳論と実践 言語対照		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<ul style="list-style-type: none"> <li>①翻訳理論の習得と把握ができる。</li> <li>②翻訳に必要な資質が分かる。</li> <li>③翻訳のプロセスが理解できる。</li> <li>④翻訳の基礎技能を身につけることができる。</li> </ul>		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>①翻訳論</li> <li>②翻訳ための文法</li> <li>③翻訳の基礎</li> <li>④翻訳技能の基礎訓練</li> </ul>		
成績評価の方法	レポートを基礎とし、毎回の発表の質を参考にして評価する。レポートのテーマ、提出方法などは授業中に指示する。		
テキスト	『中国語翻訳実践教室』松岡榮志 関久美子 イースト・プレス		
参考文献	『日中・中日翻訳トレーニングブック』高田裕子、毛燕 大修館書店		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	中国語学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。在室中なら何時でも対応する。		
授業の形式・方式	対面授業で、講義と演習形式を併用して行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語学 文法論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>外国語を勉強するにあたって、文法を避けて通れない。単語の習得も大切だが、文法を知らないと、上達は望めない。</p> <p>①中国語の文法の全貌が把握できる。  ②系統的に中国語の文法を身につけることができる。  ③正しく中国語の構文ができる。</p>		
授業の内容	①総論、文法と語法 ②品詞論 ③連語 ④文の成分 ⑤文 ⑥複文		
成績評価の方法	レポートを基礎とし、毎回の発表の質を参考にして評価する。レポートのテーマ、提出方法などは授業中に指示する。		
テキスト	『新しい中国語語法』中山時子監修／鹿琮世・藤山和子編著 東方書店		
参考文献	『簡明 中国語文法 ポイント100』馬真 郭春貴 著 白帝社		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	中国語学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	侯 仁鋒		
研究室の場所	広島キャンパス 1926研究室		
オフィスアワー	メール予約にて随時。在室中ならいつでも対応する。		
授業の形式・方式	対面授業で、講義と演習形式を併用して行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中国語学 長文読解 意味理解 日本語訳		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>上級な中国語文章を読んで理解し、それを日本語に訳すことによって、</p> <p>①中国語の熟練度が向上できる。  ②中国語の語感が獲得できる。  ③翻訳の技能がアップできる。</p>		
授業の内容	<p>①普通の文章の読解と翻訳  ②ビジネス文章の読解と翻訳  ③特許文章の読解と翻訳  ④文学作品の読解と翻訳</p>		
成績評価の方法	レポートを基礎とし、毎回の発表の質を参考にして評価する。レポートのテーマ、提出方法などは授業中に指示する。		
テキスト	自家製テキストを事前か授業で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	韓国・朝鮮語学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国語の歴史と現状		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間文化学専攻の言語文化研究分野において、アジア言語を対象とした言語学の一科目を担う。韓国語を言語学的に考察するとともに、日本語との関連性にも触れる。		
授業の内容	韓国語使用の側面を史的に概観し、文化産物としての韓国語の位相と現状を理解することを目的とする。1. 中世韓国語から現代韓国語の音韻論と造語法と通辞論の通時的变化について学習する。2. その他：語文規範としての表記法、標準語を概括し、言語制作面からの成立の背景を理解する。言語研究の歴史面からは、現在の学校文法の体系と日本語学との関連性などを検討し、比較研究を通じた親族関係論などを講述する。吏讀、口訣、訓民正音(ハングル)を対象にしてその原理を理解し、日本語の仮名との関連性にも言及する。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	1. 基本テキスト：国語史概論(李基文著、ソウル) 2. 国語学概論(ソウル)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	韓国・朝鮮語学研究Ⅰ		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義・演習形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国語の歴史と現状		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間文化学専攻の言語文化研究分野において、アジア言語を対象とした言語学の一科目を担う。韓国語を言語学的に考察するとともに、日本語との関連性にも触れる。		
授業の内容	1. 一般言語学の理論と方法論の理解とを基にして、韓国・朝鮮語学の重要論著の講読を内容とする。講述記述文法や変形生成文法を中心に、実際の韓国語資料を、音韻、形態素、文、意味の順序で分析し、研究の方法論の体得を目指す。2. また、研究方法に焦点をあてて、問題点を探す批判的な眼目を養成するため、韓国語学研究の代表的先行論著を検討し、研究情報の確実な入手と的確な分析の方法を修得する。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	1. 基本テキストは国語学概論(ソウル) 2. その他プリント		
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	韓国・朝鮮語学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	鄭 遇澤 (チョン ウテク)		
研究室の場所	広島キャンパス 1927研究室		
オフィスアワー	火、水、木 11:00-12:00		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義・演習形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	韓国語の文法論, 語彙論, 意味論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間文化学専攻の言語文化研究分野において、アジア言語を対象とした言語学の一科目を担う。韓国語を言語学的に考察するとともに、日本語との関連性にも触れる。		
授業の内容	音韻論と文法論(形態論, 統辞論)と語彙論(意味論を含む)の分野のテーマ目録と基本的な資料を提示し、各テーマごとに重要論著とその内容を概説する。それに基づいて関心のあるテーマを自由選択し、研究Ⅰで習得した方法を利用して、自分なりの分析調査を実施し、その結果を発表・論議しながら、韓国語の文法体系の理解と論理的な思考力を向上させる。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	1. 基本テキストは国語学概論(ソウル) 2. その他プリント		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本語学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面講義形式・対面演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	キリシタン語彙, 渡来語研究, 外来語研究, 地理言語学, 外書講読, フィールド・ワーク		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：①キリシタン語彙研究, 渡来語研究, 外来語研究, 地理言語学の今日的課題を理解する。 ②外書を講読することにより, 言語研究の方法を学ぶ。 ③言語資料を収集し, 分析し, 論文としてまとめる力を身につける。</p> <p>カリキュラム上の位置づけ：総合学術研究科人間文化学専攻の専門科目</p>		
授業の内容	<p>担当者の研究課題であるキリシタン語彙研究, 渡来語研究, 外来語研究, 地理言語学について概説し, 関連する英語文献を輪読した後, フィールド・ワークをおこない, 収集した資料に基づき報告書を作成する。但し, 受講生の人数, 専門分野, 興味・関心により, 内容を一部変更する可能性がある。</p>		
成績評価の方法	期末に提出する研究論文・研究報告によって評価する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	研究の内容に応じて, 授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	専門的内容である。学部の「日本語文化論」系科目の履修・修得を前提として講義・演習を進める予定である。未履修・未修得の学生は, 授業開始前に申し出ること。		

授業科目名	日本語学研究Ⅰ		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	日本語研究, 方法論, 論文作成		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標：収集した資料に基づいて演習発表をおこなうことで、修士論文の作成能力を培う。</p> <p>カリキュラム上の位置付け：総合学術研究科人間文化学専攻の専門科目。</p>		
授業の内容	<p>受講生自らが収集した資料に対する日本語学的研究をおこない、当該資料の言語の日本語史上の位置について諸問題を発見・解明する能力を身につけさせ、日本語研究の研究論文を作成することができるよう指導する。</p>		
成績評価の方法	<p>期末に提出する研究論文・研究報告によって評価する。</p>		
テキスト	<p>プリントを配布する。</p>		
参考文献	<p>研究の内容に応じて、授業中に紹介する。</p>		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>「修士論文の執筆は教員との二人三脚」とも言われるが、自立的・自律的に研究を推進してほしい。もちろん、指導・援助は惜しまない。また、修士2年の秋頃には全国規模の学会で研究発表することを目標にして研究を進めてほしい(義務ではない)。</p>		



授業科目名	日本語学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 俊輔		
研究室の場所	広島キャンパス 1913		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	日本語研究, 方法論, 論文作成		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>授業の目標: 収集した資料に基づいて演習発表をおこなうことで, 修士論文の作成能力を培う。</p> <p>カリキュラム上の位置付け: 総合学術研究科人間文化学専攻の専門科目。</p>		
授業の内容	<p>受講生自らが収集した資料に対する日本語学的研究をおこない, 当該資料の言語の日本語史上の位置について諸問題を発見・解明する能力を身につけさせ, 日本語研究の研究論文を作成することができるよう指導する。日本語学研究Ⅰにおいて触れ得なかったこと, 解決に至らなかった点を中心に, さらに専門的に深められるよう指導する。</p>		
成績評価の方法	期末に提出する研究論文・研究報告によって評価する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	研究の内容に応じて, 授業中に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	<p>「修士論文の執筆は教員との二人三脚」とも言われるが, 自立的・自律的に研究を推進してほしい。もちろん, 指導・援助は惜しまない。また, 修士2年の秋頃には全国規模の学会で研究発表することを目標にして研究を進めてほしい(義務ではない)。</p>		

授業科目名	比較文学論		
担当教員氏名(助手氏名)	樹下 文隆, 柳川 順子		
研究室の場所	1911・1713 (広島キャンパス教育研究棟1-7・9階)		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。オムニバス形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	中国文学と日本文学 白楽天(白居易) 陶淵明 七夕 張騫 呉越合戦 伍子胥 范蠡 西施 砧 蘇武		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	言語文化研究分野の選択科目。異文化理解のための基礎的な思考力を身に付けることを目標とする。		
授業の内容	日本文学における中国文学の受容のあり方の検討を通して、日中双方の文学の独自性について考究する。日本古典文学に多大な影響を与えた白楽天(白居易)や陶淵明などの文人、『史記』を始めとする中国史書が日本のとりわけ中世後期の文学にどのように影響を与えたのか、日中双方の古典受容の変貌をたどる。		
成績評価の方法	レポート2本によって総合的に評価する。		
テキスト	その都度、指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	英米文学特論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義と、それに関連する資料を読む演習とを並行して行う。 1回の授業のために学生は少なくとも3時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	19世紀イギリス文学、文化、パラダイムの変遷、ヨーロッパ言語思想		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	英文資料を多読することで読解力を身につけるとともに、イギリス文学・文化研究に必要な基礎知識を修得する。		
授業の内容	19世紀イギリス文学を研究するのに欠かせない歴史的・社会的・文化的背景を理解するために、パラダイムの変遷おほびヨーロッパ言語思想史を概観すると共に、具体的な作品を通して、19世紀における支配的なイデオロギーや様々な社会問題について考察する。特に、19世紀では「見ること」が社会構造の根幹を成し「見ること」について様々な探求と実験が行われただけでなく、視覚に関する認識の重大な転換が起こったこと、それが科学や哲学の分野のみならず、小説や絵画の領域にも多大な影響を及ぼしたことに注目する。文学および文化研究の理論についても講義する。		
成績評価の方法	毎回の授業に対する取り組み状況70%、学期末レポート30%の割合で評価する。レポートについての詳細は授業中に指示する。		
テキスト	Oscar Wilde, The Importance of Being Earnest and Other Plays. Oxford World's Classics. (Oxford UP) (1200円)		
参考文献	John Sloan, Oscar Wilde. Authors in Context(Oxford World's Classics) Peter Raby, The Cambridge Companion to Oscar Wilde (Cambridge UP)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	研究対象とする時代と作品を知るために、英語、日本語を問わず、できるだけ多くの本を積極的に読んでください。		

授業科目名	英米文学研究 A I		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。テキストを用いて演習形式で行う。読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていくが、1回の授業のために学生は少なくとも3時間の予習が必要である。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	19世紀イギリス文学、絵画		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	文学作品の読解力を高め、その分析方法を修得する。文学と絵画の緊密性とその相互影響について学ぶ。		
授業の内容	<p>19世紀イギリスの文学作品の精読を通して読解力を向上させるとともに、関連する作家論、作品論を併せて読むことで作品についての理解を深め、分析方法を修得する。作品の歴史的・社会的・文化的文脈も考慮し、個々の作品からいかに時代を逆照射できるかを探る。</p> <p>また、小説と絵画の緊密性に注目して、両者が共有するテーマや問題意識、「文化」を形成すると同時に問題化していく場としての両者の意義、さらに、両者が相互影響のもとでそれぞれの理論化を進めていった様子などについて考察する。</p>		
成績評価の方法	毎回の授業に対する取り組み状況70%、学期末レポート30%の割合で評価する。レポートについての詳細は授業中に指示する。		
テキスト	Oscar Wilde, The Importance of Being Earnest and Other Plays. Oxford World's Classics. (Oxford UP) (1200円)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	じっくりと作品に取り組み、自分自身の考えを大切にしながら、自分に適したテーマと研究方法を模索してください。		

授業科目名	英米文学研究 A II		
担当教員氏名(助手氏名)	天野 みゆき		
研究室の場所	広島キャンパス 1816研究室		
オフィスアワー	研究室のドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。学生の発表と議論を中心とする演習形式でテキストを講読する。 1回に読み進む分量は学生の理解度をみながら決めていくが、一回の授業のために、学生は少なくとも3時間以上の自習が必要である。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	19世紀イギリス文学、批評理論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	文学作品の読解力の向上させるとともに、批評理論を基に、自分なりの研究方法を修得することを目指す。		
授業の内容	19世紀イギリスの文学作品を精読することにより、読解力のさらなる向上を目指す。また、人文科学の研究において大きな成果をあげたフェミニズム批評やポストコロニアル批評、およびバフチンの言語論や構築主義、言語論的転回などがもたらした研究方法が、対象とする文学作品の分析にどの程度有効であるかを検証する。それによって自分なりの着眼点や研究方法を模索し、19世紀イギリス文学についての研究論文を作成する能力を培う。		
成績評価の方法	毎回の授業に対する取り組み状況70%、学期末レポート30%の割合で評価する。レポートについての詳細は授業中に指示する。		
テキスト	Oscar Wilde, The Importance of Being Earnest and Other Plays. Oxford World's Classics. (Oxford UP) (1200円)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学特論B		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式・講義形式を併用する。授業で扱う範囲を前もって読み、概要を押さえておくこと。2回程度簡単なレポートを提出してもらう。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	英国モダニズム文学, フェミニズム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	アイルランドの作家、ジェイムズ・ジョイスを中心に20世紀モダニズム作家を取り上げる。ジョイスについては、英国の植民地であったアイルランドの歴史的特殊性を考慮しつつ、テキストの抜粋を読みながら主要作品を分析する。更に、ヴァージニア・ウルフなど、同時代の英国作家との比較を通して、それぞれの特徴と差異を浮き彫りにし、そこから窺える両者の諸問題について考察する。また、それを通して、現代英文学が抱える普遍的な問題の考察へと繋げる。		
授業の内容	英国モダニズム文学を中心に、20世紀英文学について学ぶ。代表的な作品の抜粋を読むと同時に、時代背景も考慮に入れながら、その時代の文学の特徴について考察する。但し内容や取り上げる時代に関しては受講者の希望により変更する場合がある。		
成績評価の方法	レポートを基礎とし、普段の学習態度を参考にする。		
テキスト	適宜配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学研究B I		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室(0822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	20世紀英文学、フェミニズム、意識の流れ		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ジェイムズ・ジョイスを中心に20世紀モダニズム作家の作品を取り上げる。演習形式でテキストを読み進め、テキストの解釈のみならず、文学的な解釈をも発表させ、ディスカッション形式で考察を深めて行く。また、その過程を通して、英文学研究者として必要な、テキストの分析方法・解釈方法などの研究の基礎を習得させる。必要に応じて異なる時代の英文学作品を取り上げる場合がある。		
授業の内容	テキストは受講者と相談の上決定する。		
成績評価の方法	レポートを基礎とし、出席・学習態度を参考にする。		
テキスト			
参考文献	適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米文学研究B II		
担当教員氏名(助手氏名)	高橋 渡		
研究室の場所	広島キャンパス 1822研究室		
オフィスアワー	研究室(1822)のドアに掲示。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(英語)選択、高専免(英語)選択		
キーワード	20世紀英文学、アイルランド、ポストコロニアリズム		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	ジェイムズ・ジョイスを中心に20世紀モダニズム作家の作品を取り上げる。演習形式でテキストを読み進め、テキストの解釈のみならず、文学的な解釈をも発表させ、ディスカッション形式で考察を深めて行く。また、その過程を通して、英文学研究者として必要な、テキストの分析方法・解釈方法などの研究の基礎を習得させる。		
授業の内容	前期にのテキストを引き続き読む。		
成績評価の方法	レポートを基礎とし、普段の学習態度を参考にする。		
テキスト			
参考文献	適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	中国文学特論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式を中心として、随時、受講生に意見を求める。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	曹植、曹操、曹丕、建安七子、五言詩、『文選』、『三国志』		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	言語文化研究分野の選択科目。 中国古典文学を研究する方法の一例を学ぶ。		
授業の内容	中国中世文学の初めを切り開いた建安文壇。その筆頭に挙げられる詩人曹植の文学に光を当てる。彼はその人生の前半、魏を建国した父曹操の後継者という座をめぐって、兄曹丕と対立する関係に押しやられたが、この間、彼は周辺の人物たちに向けて少なからぬ詩を贈っている。そうした贈答詩に認められる表現上の特徴は何か。そこから推し測ることのできる曹植の思いは何か。彼の詩を精読することによって、曹氏兄弟の争いの実相、曹植の為人、彼の文学の特質を探る。		
成績評価の方法	授業に対する取り組み状況(50%)とレポート(50%)により評価する。		
テキスト	プリント資料を配布。		
参考文献	随時紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	中国文学研究 A I		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式を中心として、随時講義を交える。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	『文選』、李善注、典故表現、目録学、校勘学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	言語文化研究分野に位置付けられる選択科目。 中国古典語で記された諸文献を読むために必要な、基礎的研究方法の習得を目標とする。		
授業の内容	中国古典文学の基本書のひとつであり、日本の中古文学にも大きな影響を与えた六朝時代の文学選集『文選』を、唐代の注釈者李善の注に拠って精読する。『文選』所収の諸作品には、儒教の経典、歴史書、思想書、先行する文学作品など、様々なジャンルの古典籍を踏まえた表現、いわゆる典故表現が随所に織り込まれているため、これを正確に読み解くためには、目録学により、中国古典籍全体の見取り図を把握する必要がある。また、読解に先立っては、複数のテキストを比較検討して、そのテキストの本来の姿を復元しておくこと、いわゆる校勘学も不可欠となる。こうした基礎的な研究方法を、李善注『文選』の読解を通して習得してゆく。		
成績評価の方法	授業に対する取り組み状況により評価する。		
テキスト	プリント資料を配布する。参考文献は、随時紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	半期では十分な習得が難しいので、後期開講の中国文学研究 A II も引き続き受講することが望ましい。中国古典文学、及びこれに隣接する分野(たとえば日本古典文学など)の専攻者を主たる対象とする。		

授業科目名	中国文学研究AⅡ		
担当教員氏名(助手氏名)	柳川 順子		
研究室の場所	広島キャンパス 1713研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式を中心として、随時講義を交える。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	『文選』、李善注、典故表現、目録学、校勘学、訓詁学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	言語文化研究分野の選択科目。 中国文学研究AⅠで培った基礎の上に、更なる読解力の向上を目指す。		
授業の内容	中国文学研究AⅠで習得した研究方法に基づいて、引き続き李善注『文選』巻21(詠史)を精読する。		
成績評価の方法	授業に対する取り組み状況により評価する。		
テキスト	プリント資料を配布する。参考文献は、随時紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	半期では十分な修得が難しいので、前期開講の中国文学研究AⅠは必ず受講しておくこと。中国古典文学、及びこれに隣接する分野(たとえば日本古典文学など)の専攻者を主たる対象とする。		

授業科目名	中国文学特論B		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	中国文学史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間文化学専攻の言語文化研究分野において、中国の語学文学を対象とした一科目を担う。中国語中国文学の特徴を、歴史観をもって考察する。		
授業の内容	中国の文化の潮流を文学史から確認する。高等学校の漢文では習わない文史哲(文学史学哲学思想)の中心的な展開を追うことによって、本質的な特徴と時代の変遷による差異を考察する。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	プリント 中村璋八編著『中国思想文学通史』(明治書院)他、参考文献は随時紹介。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	中国文学研究B I		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義・演習形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	中国現代文		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間文化学専攻の言語文化研究分野において、中国の語学文学を対象とした一科目を担う。中国語中国文学の特徴を、現代文を用いて考察する。		
授業の内容	中国の新聞記事などを利用して、新語の理解や社会問題・文化潮流を検討する。言語分野に止まらず、言語表現を考えながら先行研究・周辺領域との関係などを総合的に研究する方法を修得する。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	プリント。参考文献は随時紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	現代中国語を習得していること。		

授業科目名	中国文学研究BⅡ		
担当教員氏名(助手氏名)	丸山 浩明		
研究室の場所	広島キャンパス 1712研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義・演習形式を併用して実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	明清小説		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人間文化学専攻の言語文化研究分野において、中国の語学文学を対象とした一科目を担う。中国語中国文学の特徴を理解するために、中国小説史を考察する。		
授業の内容	四大奇書あるいは名著と言われる代表的な小説に対する理解を深める。特に日本における研究状況をまとめる作業を通して、プライオリティや研究の方向性系統性を考える。		
成績評価の方法	レポートにより評価する。		
テキスト	プリント。参考文献は随時紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	現代中国語を習得していること。		

授業科目名	日本語表象特論		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式と演習形式を併用。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	日本近現代文学、日本語文学、国家と民族と言語、越境文学、ポストコロニアリズム、台湾史		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本語を必ずしも母語としない作家によって生み出された、「日本語文学」の読解・分析を通じて、国家や言語、民族という枠組みを越える視点、思想を学ぶことを目的とする。また、日本近代文学の基礎的知識を踏まえて、「日本語文学」という表象の可能性を文学史のなかに位置づける作業を行う。		
授業の内容	日本語を母語としない、或いは日本語以外の言語能力を持つにもかかわらず、あえて日本語を選択して創作する作家とその作品の方法について考察を行う。日本＝日本人＝日本語＝日本文学という従来の枠組みを越えた、作家の営為と作品の具体を追究することによって、国家・民族・言語、そして人間とは何かという問題を改めて問い直す。具体的には台湾の日本語作家・黄霊芝の小説を分析対象とする。		
成績評価の方法	研究発表(40%)、課題レポート(30%)、質疑応答など毎時の取り組み(30%)により、総合的に評価する。		
テキスト	黄霊芝著・下岡友加編『戦後台湾の日本語文学 黄霊芝小説選』(溪水社)		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学部卒業程度の日本文学史に関する知識を身につけていることを前提とする。学生の読解能力によっては、学部の授業をあわせて受講することを義務づけるので、受講希望者は授業開始前にメール等で教員まで必ず連絡すること。		

授業科目名	日本語表象研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	日本近代文学、作家論、作品論、テキスト論、文化研究、生成論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本近代文学の基礎的知識を踏まえて、研究・論述のために必要となる、実践的な手順と方法を身につけることを目的とする。		
授業の内容	日本近代文学の作家と作品、或いは特定のテキストと時代や文化状況の関係について考察し、対象を文学史・文化史のなかに位置づけ、評価する作業を行う。先行研究や同時代の資料などを活用しながら、専門的知識を学ぶとともに、個々の文学作品の構造、テキストの様態に関する具体的検討を通じて、文学という表象の持つ可能性及び限界を明らかにする。		
成績評価の方法	研究発表(40%)、課題レポート(30%)、質疑応答など毎時の取り組み(30%)により、総合的に評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	学部卒業程度の日本文学史に関する知識を身につけていることを前提とする。学生の読解能力によっては、学部の授業をあわせて受講することを義務づけるので、受講の希望者は授業開始前に教員までメール等で必ず連絡すること。		



授業科目名	日本語表象研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	下岡 友加		
研究室の場所	広島キャンパス 1915研究室		
オフィスアワー	授業がある日の在室時		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	日本近代文学、作家論、作品論、テキスト論、文化研究、生成論		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	「日本語表象研究Ⅰ」で習得した知識を踏まえて、研究・論述のために必要となる、さらに高度な方法と能力を身につけることを目的とする。		
授業の内容	日本近代文学の作家と作品、或いは特定のテキストと時代や文化状況の関係について考察し、対象を文学史・文化史のなかに位置づけ、評価する作業を行う。先行研究や同時代の資料などを活用しながら、専門的知識を学ぶとともに、個々の文学作品の構造、テキストの様態に関する具体的検討を通じて、文学という表象の持つ可能性及び限界を明らかにする。		
成績評価の方法	研究発表(40%)、課題レポート(30%)、質疑応答など毎時の取り組み(30%)により、総合的に評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	「日本語表象研究Ⅰ」を履修していることを受講の前提とする。学生の読解能力によっては、学部の授業をあわせて受講することを義務づけるので、受講希望者は、授業開始前に教員までメール等で必ず連絡すること。		

授業科目名	日本文学特論 A		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	広島キャンパス 1914研究室		
オフィスアワー	授業のある日の在室時		
授業の形式・方式	対面方式。講義と演習の併用。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	物語文学、源氏物語、中世王朝物語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	物語文学の特質についての理解を深めるとともに、仮名散文学についての確かな読解力を身につけることを目的とする。		
授業の内容	『源氏物語』は古典として享受される一方で、その強い影響のもと、さまざまな文学世界に取りこまれながら変容と再生を繰り返していった。物語の精読を通じて物語文学についての正しい認識を持ち、『源氏物語』と『源氏物語』以後の物語文学の特徴について理解を深める。狭義の物語文学史の展開をおさえた上で物語文学史の展開と物語研究の現状に留意して、その特質と問題点を明らかにするとともに、『源氏物語』との関係および変容の相の解明、評価の変遷、地域での享受のあり方など、物語文学が抱える諸問題について考究する。受講生と相談の上、取り上げる資料、進め方を決定する。		
成績評価の方法	毎時の取り組みの姿勢(80パーセント)、期末の課題レポート(20パーセント)で評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献	開講時のほか、適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	読解力は日々の積み重ねによって身につく。明確な問題意識を持って対象に取り組む姿勢が肝要である。古典だからと敬遠することなく取り組んでほしい。		

授業科目名	日本文学研究A I		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	広島キャンパス 1914研究室		
オフィスアワー	授業のある日の在室時		
授業の形式・方式	対面方式。演習。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	物語文学、王朝物語、中世王朝物語、源氏物語		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	物語を読むための基礎知識の修得と、正確な読解力、注釈能力を身につけることを目的とする。狭義の物語文学史の展開を常に意識しながら、『源氏物語』の成立まで、そして『源氏物語』以後の物語文学の特徴について、具体的な作品読解を通じて考える。		
授業の内容	『源氏物語』は12世紀後半に古典としての地位を確立し、以後物語文学のみならず、さまざまなジャンルの文学、日本文化に影響を与え続けた。平安後期以後に成立した物語は『源氏物語』への理解なくして読むことはできない。また、『源氏物語』は先行する物語や中国文学の強い影響のもとに成立したことから、『竹取物語』や『うつほ物語』などが持つ特徴についても目配りを必要とする。受講生の関心の所在を聞きながら、王朝の物語文学とその享受資料のなかから一作品を取り上げて読み進める。それによって、物語文学が抱える諸問題を発見・解明する能力を身につけ、物語文学に関わる研究論文を作成するための基本的な方法の修得をめざす。取り扱う資料は受講生と相談の上決定する。		
成績評価の方法	演習への取り組みの姿勢(70パーセント)、課題レポート(30パーセント)で評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	読解力は日々の積み重ねによって身につく。明確な問題意識を持って対象に取り組む姿勢が肝要である。古典だからと敬遠することなく取り組んでほしい。		

授業科目名	日本文学研究AⅡ		
担当教員氏名(助手氏名)	西本 寮子		
研究室の場所	広島キャンパス 1914研究室		
オフィスアワー	授業のある日の在室時		
授業の形式・方式	対面方式。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(国語)選択、高専免(国語)選択		
キーワード	物語文学、王朝物語、中世王朝物語、源氏物語、古典の享受		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	物語文学を読むための基礎知識の習得と、応用方法および論文作成のための問題発見能力、対象を分析する能力を培うことを目的とする。		
授業の内容	日本文学研究AⅠにおいて身につけた基礎力の上に、自らの問題意識に基づいて問題点を発見し、その問題を解決する能力と応用する力を伸ばし、さらに専門的に深めることをめざす。対象として取り上げた資料を精読し、問題点を整理する。併せて当該作品についての先行論文を読み、研究の現状を踏まえ、自らの問題意識に基づく論点を確認し、正確な読解力に基づいて物語文学についての研究論文が作成できるよう具体的に学ぶ。読み進める具体的な資料、論文については、受講生と相談の上、決定する。		
成績評価の方法	毎時の演習への取り組みの姿勢(70パーセント)、課題レポート(30パーセント)で評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	日本文学研究AⅠまた近接領域の科目を履修していることが望ましい。古典文学の享受と伝播についての問題意識を持って臨むこと。		

授業科目名	比較社会論		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広, スティーブン・ローゼン, 植村 広美		
研究室の場所	担当教員研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。オムニバス授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(公民)選択		
キーワード	家族関係、社会構造、社会変動、組織、企業、財閥、官僚制、国民社会、近代化、東アジア社会、米国社会、ポストモダン、社会文化、文化人類学、現象学、記号学、グローバル化、情報化		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本との比較を念頭におきつつ、中国、韓国、そして米国を対象とする社会構造と社会変動についての理解を深めることを目標としている。急激な経済発展に直面し、高度な資本主義社会に向かいつつあるアジアとグローバル化の発信地である米国社会の社会変動と文化・情報が向かう方向とその意味を探る方法を提示する。各地域を対象としている科目に対し、グローバルな視点を心得、地域間の関連性への理解を深める。		
授業の内容	東アジアと英米の現代社会について、それぞれの地域の動向を的確に判断するため、その社会、経済、文化の構造を把握できるようにする。 (富田) 日本と中国の家族関係の比較を通じて、それぞれの社会構造を明らかにし、それぞれの社会の持つ問題を探っていく。 (ローゼン) 文化人類学と基本的な社会学の理論を学び、アメリカの社会と文化を日本と比較研究する。記号学、現象学を含め、文化に関するポストモダニズムの理論についても検討する。 (植村) 他国の教育の制度や実態を把握することにより、日本の教育に対する理解を深め、多角的・多面的に教育の課題を検討していく。		
成績評価の方法	授業の出席態度(20%)、小レポート(30%)、期末レポート(50%)で評価する。		
テキスト	オムニバス担当者が受講生の専門分野を勘案して、随時、参考文献を紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	アジア諸国と英米諸国などを対象としている一方、文化人類学、社会学、経済学に関わるが地域とその学問分野の方法について基本的な概念から説明するので、必ずしもその分野の専門知識を前提していない。		

授業科目名	思想文化特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(公民)選択		
キーワード	哲学、近代、現代、知、存在		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	受講者の問題関心を勘案しつつ、哲学上の問題を取り上げ、考察し、議論を通じて理解を深める。		
授業の内容	<p>現代の思想状況は、自然科学の客観性とそれに基づく科学技術の発展を肯定する方向に大きく規定されているとともに、それだけでは尽くすことのできない事象の存在に直面している。現代のものの見方の二重性に目を向けるとき、例えば、近代的思想によっては捉えきれない人間(現存在)と存在を論じる新たな枠組みを構築することに努力したハイデガーの思想が持つ意味も、明らかになる。「思想文化特論」では、現代の思想のおかれた状況を哲学的に論じる。</p> <p>テーマは受講者と相談して決めるが、一応、現代の哲学書の中からM. ハイデガーの『存在と時間』を挙げておく。この場合には、現存在分析とその位置づけについて講じる。</p> <p>また、受講生の希望があれば、言語哲学を取り上げることも可能。</p>		
成績評価の方法	学期末のレポートによる。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	思想文化研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(公民)選択		
キーワード	哲学、近代、現代、知、存在		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	受講生が自ら設定した研究テーマを深めることを目標とする。		
授業の内容	<p>現代の思想状況は、自然科学の客観性とそれに基づく科学技術の発展を肯定する方向に大きく規定されているとともに、それだけでは尽くすことのできない事象の存在に直面している。こうした状況は、哲学の歴史を通じて展開してきた各時代における知の枠組みへの正しい認識に基づいて、より正確に把握されうる。「思想文化研究 I」では、現代の思想状況が成立するに至った歴史的経緯を哲学史的に捉えたうえで、現代の置かれた状況の解析と新たな知の枠組みの可能性を学制が自ら哲学的に研究できるように、指導する。テキストについては、受講生と相談して決定する。これまでに、中国人学生の希望により、野矢茂樹『論理トレーニング』をとりあげたことがある。</p> <p>また、受講生の希望があれば、言語哲学を取り上げることも可能。</p>		
成績評価の方法	学期末のレポートによる。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	思想文化研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小川 吉昭		
研究室の場所	広島キャンパス 1825研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(公民)選択		
キーワード	哲学、近代、現代、知、存在		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	受講生が自ら設定した研究テーマを深めることを目標とする。		
授業の内容	<p>現代の思想状況は、自然科学の客観性とそれに基づく科学技術の発展を肯定する方向に大きく規定されているとともに、それだけでは尽くすことのできない事象の存在に直面している。こうした状況は、哲学の歴史を通じて展開してきた各時代における知の枠組みへの正しい認識に基づいて、より正確に把握されうる。「思想文化研究Ⅱ」では、現代の思想状況が成立するに至った歴史的経緯を哲学的に捉えたうえで、現代の置かれた状況の解析と新たな知の枠組みの可能性を学制が自らさらに深く哲学的に研究できるように、指導する。</p> <p>テキストについては、受講生と相談して決定する。これまでに、中国人学生の希望により、野矢茂樹『論理トレーニング』を取り上げたことがある。</p> <p>また、受講生の希望があれば、言語哲学を取り上げることも可能。</p>		
成績評価の方法	学期末のレポートによる。		
テキスト	適宜紹介する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	英米地域特論		
担当教員氏名(助手氏名)	ステーブン・ローゼン		
研究室の場所	広島キャンパス 1817研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Small group discussion/debate & lectures		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会) 選択, 高専免(公民) 選択		
キーワード	U.S. Business History, Technology and Business in America, American entrepreneurs		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	The purpose of this course is to study American companies which are good from the point of view of innovation.		
授業の内容	We will look at some early examples of innovation in American business such as Kellogg's and Ford, and then move on to innovation in Silicon Valley and the computer industry. Finally we will look at some of the most innovative and humanistic companies in America today. There will be a special focus on American entrepreneurs.		
成績評価の方法	Evaluation is based on attendance(15%) oral report(25%) and a final report (60%)		
テキスト	Materials to be provided by the instructor		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	スティーブン・ローゼン		
研究室の場所	広島キャンパス 1817研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	Small group discussion/debate & lectures		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択, 高専免(公民)選択		
キーワード	American economic and social history		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The purpose of this course is to understand the development of American society through history from an economic and sociological perspective. Special attention will be given to the history of globalization from an American point of view.		
授業の内容	We begin by looking at the birth of British colonial America in the context of mercantilism and the rise of European capitalism. We then look at the birth of the United States of America in 1776 from a primarily economic perspective.  As we move into the 19th century we look at the transition of American from an agricultural society to an industrial one. Then we study in some detail, the rise of the modern corporation in the late 19th and early 20th century.		
成績評価の方法	Attendance and participation (40%), Oral report (20%), Final report (40%)		
テキスト	Original materials provided by the instructor		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	ステーブン・ローゼン		
研究室の場所	広島キャンパス 1817研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	small group discussion/debate & lectures		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択, 高専免(公民)選択		
キーワード	U.S. economy, America in the Global Market Place		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	The purpose of this course is to develop a deep understanding of the nature of the U.S. economy and business in the context of 21st Century globalization		
授業の内容	We will first take a look at the rise of America as a world economic power in the context of 20th century globalization. We then move on to see how the U.S. has been changing and adapting to 21st century global market influences.		
成績評価の方法	Attendance & participation (40%), Oral report (30%), Final Report (30%)		
テキスト	Materials to be provided by the instructor		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域特論		
担当教員氏名(助手氏名)	植村 広美		
研究室の場所	広島キャンパス1716研究室		
オフィスアワー	事前にE-Mail等にてアポを取ってください		
授業の形式・方式	対面授業＋学生の発表による演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(公民)選択		
キーワード	中国、教育		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	中国における教育の現代化を考えるにあたり、古代中国文化の創造期から改革開放の現在に至る教育の内容・制度の変遷を理解する。		
授業の内容	中国教育学界を長年リードしてきた著者による『中国教育の文化的基盤』を講読する。古代中国文化の創造期から改革開放の現在に至るまで、教育の内容・制度の変遷に関する分析を踏まえた上で、現代中国にみられる教育問題についても検討する。		
成績評価の方法	出席状況、演習時の発表内容と討論における知識と論理的一貫性等で評価する		
テキスト	適宜、関係資料を配布する		
参考文献	顧明遠著・大塚豊監訳『中国教育の文化的基盤』東信堂、2008年 他、適宜授業中に紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	植村 広美		
研究室の場所	広島キャンパス1716研究室		
オフィスアワー	事前にE-Mail等にてアポを取ってください		
授業の形式・方式	対面授業＋学生の発表による演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(公民)選択		
キーワード	中国、教育		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	現代中国における公教育の制度的特徴、課題について考察する		
授業の内容	平等の実現を求め続ける中国の公教育制度について、学校教育における多様化と地方化、6-3制と5-4制、学校選択制と学区制、小中一貫の発想などの観点から、制度改革のもつ意味を考えていく。		
成績評価の方法	出席状況、演習時の発表内容と討論における知識と論理的一貫性等で評価する		
テキスト	適宜、関係資料を配布する		
参考文献	楠山研『現代中国初中等教育の多様化と制度改革』東信堂、2010年 他、適宜授業中に紹介する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	植村 広美		
研究室の場所	広島キャンパス1716研究室		
オフィスアワー	事前にE-Mail等にてアポを取ってください		
授業の形式・方式	対面授業＋学生の発表による演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(公民)選択		
キーワード	中国、教育		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	東アジア特論、東アジア地域研究Ⅰなどの受講後に問題意識を明確にして具体的なテーマの実証的な作業に入る。		
授業の内容	東アジア地域研究Ⅰにおける中国教育に関する知識に基づき、中国における教育課題の具体的な事例を研究する。前半は農民工子女の教育に関する文献の講読を通して研究の方法論を学び、後半は各自が設定するテーマに沿って報告を行う。		
成績評価の方法	出席状況、演習時の発表内容と討論における知識と論理的な一貫性等で評価する		
テキスト	適宜、関係資料を配布する		
参考文献	植村広美『中国における「農民工子女」の教育機会に関する制度と実態』風間書房、2009年 他、適宜関係資料を配布する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本地域特論		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	講義形式を主とするが、テキストおよび資料に基づくディスカッションによる演習形式を併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(地歴)選択		
キーワード	人文地理学、生涯学習活動、地縁社会、地域社会、拠点、構成員、機能連携、空間的制約、空間的拡散、伝播		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、生涯学習活動の展開と地域社会のあり方について、人文地理学的視点に基づく概念を理解することである。一般的には教育学・社会学的視点で分析されてきた、これらの諸問題について空間的側面のもつ意味を改めて問い直し、空間のもつ制約と可能性の両面を検討していく。 日本地域研究Ⅰ・Ⅱの基礎を形成する科目として位置づけられる。		
授業の内容	距離と時間の克服が容易になった現代日本において、生涯学習活動の展開に伴う空間的制約は重大な障害とはみなされず、個人の自由度を確保しながら価値観の実現と共有を果たしうる点で、逆に有効性も見出されるようになってきた。 従来の地縁社会を越え、より広域な地域社会の形成にもつながる学習活動がいかなる形で展開されているのか、活動の拠点、構成員の属性、組織間の機能連携、空間的拡散などの側面から、人文地理学的視点に立って検討してゆく。		
成績評価の方法	期末レポート70%、授業への参加意欲20%、授業への参加度10%の割合で評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	これまでに地理学を履修していたか否かは問わないが、受講生は全員、指示されたテキストおよび資料を授業開始前に読み、各自の見解や疑問点を整理して授業に臨むこと。		

授業科目名	日本地域研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	講義形式を主とするが、テキストおよび資料に基づくディスカッションによる演習形式を併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会) 選択、高専免(地歴) 選択		
キーワード	人文地理学、生涯学習活動、地域社会、拠点、構成員、機能連携、空間的拡散、伝播		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、日本地域特論で得た基本的知識や視点をもとに、人文地理学的な分析についての方法論を理解することである。 生涯学習活動の展開と地域社会のあり方に関する諸問題を、空間的側面に重点を置きながら検討する過程を通じて、自力で資料の収集と分析ができる能力を身につける。		
授業の内容	生涯学習活動の展開に伴う地理的空間の制約と有効性について、活動の拠点たる施設の設置と利用状況、構成員の属性、組織間の機能連携、空間的拡散などの側面から、人文地理学的視点に立って考察するため、文献講読を通して知識の習得と基本的視座の獲得を図る。 事例地域は日本であるが、生涯学習の概念や日本に導入された経緯を理解し、活動の先進的事例および具体的事例を検討するためには、必要に応じて海外にも資料を求めることとする。		
成績評価の方法	期末レポート70%、授業への参加意欲(発表内容、討論への参加度合い)20%、授業への参加度10%の割合で評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献	酒川 茂(2004)『地域社会における学校の拠点性』, 古今書院。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	これまでに地理学を履修していたか否かは問わないが、受講生は全員、指示されたテキストおよび資料を授業開始前に読んでおくこと。 発表担当者は使用資料を少なくとも1週間前に受講生全員に配布し、説明資料を事前に準備した上で発表を行う必要がある。他の受講生は各自の見解や疑問点を整理して授業に臨むこと。		



授業科目名	日本地域研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	酒川 茂		
研究室の場所	広島キャンパス 1811研究室		
オフィスアワー	別途指示する。		
授業の形式・方式	講義形式を主とするが、テキストおよび資料に基づくディスカッションによる演習形式を併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会) 選択、高専免(地歴) 選択		
キーワード	人文地理学、生涯学習活動、地域社会、拠点、構成員、機能連携、空間的拡散、伝播		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目標は、日本地域特論・日本地域研究Ⅰで得た基本的知識や視点をもとに、人文地理学的な分析についての方法論を理解することである。 生涯学習活動の展開と地域社会のあり方に関する諸問題を、空間的側面に重点を置きながら検討する過程を通じて、自力で資料の収集と分析ができる能力を身につける。		
授業の内容	生涯学習活動の展開に伴う地理的空間の制約と有効性について、活動の拠点たる施設の設置と利用状況、構成員の属性、組織間の機能連携、空間的拡散などの側面から、人文地理学的視点に立って考察するため、主として現代日本の実態に関する知識の習得と分析枠組みの確立を図る。 具体的事例に則して考察ができるよう、文献の範囲を拡大し、地図・新聞・雑誌・テレビ・インターネット等の媒体からも情報を収集、検討することによって、修士論文のテーマ設定に結びつけてゆく。		
成績評価の方法	期末レポート70%、授業への参加意欲(発表内容、討論への参加度合い)20%、授業への参加度10%の割合で評価する。		
テキスト	開講時に指示する。		
参考文献	酒川 茂(2004)『地域社会における学校の拠点性』, 古今書院。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	これまでに地理学を履修していたか否かは問わないが、受講生は全員、指示されたテキストおよび資料を授業開始前に読んでおくこと。 発表担当者は使用資料を少なくとも1週間前に受講生全員に配布し、説明資料を事前に準備した上で発表を行う必要がある。他の受講生は各自の見解や疑問点を整理して授業に臨むこと。		

授業科目名	英米地域史特論		
担当教員氏名(助手氏名)	小平 直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業（講義）		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免（社会）選択、高専免（地歴）選択		
キーワード	巨大企業支配体制、ヘゲモニー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	受講生が、世界近現代史について理解できるようになることを目標とする。		
授業の内容	<p>アメリカ近・現代史について、主に、19世紀末以降から第二次世界大戦にいたるまでの時期の、米国の急激な工業化におもって形成された巨大企業支配体制の経済的・社会的側面、およびそれによって変化したところの政治体制、さらに国際関係におけるアメリカのヘゲモニーへの上昇・掌握というその国際的位置の変化について論じる。これを通して、今日のアメリカに内在する国内的諸問題と国際関係におけるその支配的地位について考察する。</p>		
成績評価の方法	期末試験による。		
テキスト	テキストは使用しない。		
参考文献	参考文献は適宜紹介する。		
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域史研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	小平直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業(演習)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(地歴)選択		
キーワード	受講生が、世界近現代史について理解し、あわせて史料の読解力が向上することを目指す。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	課題探求能力の育成。		
授業の内容	アメリカ近・現代史について、主に、19世紀末以降から第二次世界大戦にいたるまでの、米国の急激な工業化におもなうて形成された巨大企業支配体制、それによって変化したところの政治体制、およびアメリカのヘゲモニーへの上昇・掌握というその国際的位置の変化に関する英文史料を教材として取り扱うことによって、アメリカの国内的・国際的諸問題とその歴史的背景について、受講生自ら主体的に学び理解できるように、演習を通じて指導する。		
成績評価の方法	授業への積極的な取り組み・態度による。		
テキスト	受講生の関心に応じてテキストを決定する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	英米地域史研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	小平直行		
研究室の場所	広島キャンパス 1826研究室		
オフィスアワー	随時		
授業の形式・方式	対面授業(演習)		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(地歴)選択		
キーワード	受講生が、世界近現代史について理解し、あわせて史料の読解力が向上することを目指す。		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	課題探求能力の育成。		
授業の内容	英米地域史研究・では、アメリカ近・現代史に関わる重要な研究テーマを、受講生各人の問題意識に応じて自ら主体的に設定させ、そのテーマに関する知識・研究状況・さらなる研究の深化のための課題・論点・方向性を学び・探求させることを目標として行う。受講生に各テーマについての先行研究書・論文を調べて報告させ、受講生相互で議論させる形式で授業を進める。これを通じて、受講生自ら主体的に学び深く理解できるように、指導する。		
成績評価の方法	授業への積極的な取り組み・態度による。		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域史特論A		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 弘道		
研究室の場所	広島キャンパス 1714研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択, 高専免(地歴)選択		
キーワード	東ユーラシア 国際関係 近世 朝貢 冊封 互市 海禁 交易 倭寇 明清交替 アジアの近代化とヨーロッパ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	今日の「東アジア」各地域の地域性がどのように形成され、変容し、近代以降の東アジアに繋がっていったのかを説明できる。また、その生成に大きな影響を与えた近世期の東アジア国際関係の変遷と関連づけて理解する。		
授業の内容	「近世」とはどのような時代なのか。近代の始まりであり、なおかつ近代とは異なるこの時代のあり方を考える。まず、モンゴル帝国を軸としたユーラシア規模の地域間交流システムが「14世紀の危機」によって瓦解し、明朝中国による「朝貢一元体制」を前提とした新たな地域間交流の枠組みが形成され、さらにその枠組みが16世紀に変容して17世紀後半の清朝中国による多元的な国際体制の併存に至るまでの歴史的変遷を取り上げる。その後ヨーロッパ勢力の進出に伴って、東アジアにおける国際関係の枠組みが次第にヨーロッパ近代的な枠組みによって読み替えられていく過程を取り上げ、その現在における意義を考える。		
成績評価の方法	(毎回のリアクションペーパー50%、期末レポート50%)		
テキスト	授業内において、随時指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域史研究A I		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 弘道		
研究室の場所	広島キャンパス 1714研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択, 高専免(地歴)選択		
キーワード	前近代 旅行記 使節往還 航海 漂流・漂着 異国見聞		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	前近代の東アジアにおける「旅行記」や「見聞録」を実際に読み込んでいく作業を通じて、東アジア各地域の歴史についての理解を深める。また、「旅行記」や「見聞録」に見られる異文化に対する認識のあり方を、現在の我々にとっての異文化理解と関連づけて説明できる。		
授業の内容	この授業では、前近代における異文化体験を記録した「旅行記」や「見聞録」のうち、東アジア各地域で書かれた文献を実際に読みながら、東アジア各地域の当時の状況についての知見を深める。また同時に、それぞれの「旅行記」「見聞録」の書き手や読み手の視点を通じて、当時の異文化・異域に対するまなざし・認識のあり方を理解し、さらに現在の我々の異文化理解・異文化認識のあり方を再考する手がかりとする。		
成績評価の方法	(毎回のリアクションペーパー50%、期末レポート50%)		
テキスト	授業内において、随時指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア地域史研究AⅡ		
担当教員氏名(助手氏名)	岡本 弘道		
研究室の場所	広島キャンパス 1714研究室		
オフィスアワー	可能な限りいつでも対応する		
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択, 高専免(地歴)選択		
キーワード	前近代 旅行記 使節往還 航海 漂流・漂着 異国見聞		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	前近代～近代初期の東アジアにおける「旅行記」や「見聞録」を実際に読み込んでいく作業を通じて、東アジア各地域の歴史についての理解を深める。また、「旅行記」や「見聞録」に見られる異文化に対する認識のあり方を、現在の我々にとっての異文化理解と関連づけて説明できる。		
授業の内容	この授業では、前近代～近代初期における異文化体験を記録した「旅行記」や「見聞録」のうち、東アジアと域外との往来に関して書かれた文献を実際に読みながら、東アジア各地域および同時代の域外世界の当時の状況についての知見を深める。また同時に、それぞれの「旅行記」「見聞録」の書き手や読み手の視点を通じて、当時の異文化・異域に対するまなざし・認識のあり方を理解し、さらに現在の我々の異文化理解・異文化認識のあり方を再考する手がかりとする。		
成績評価の方法	(毎回のリアクションペーパー50%、期末レポート50%)		
テキスト	授業内において、随時指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本地域史特論		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義形式及び演習形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(地歴)選択		
キーワード	戦国大名、織豊政権、毛利氏、(朝鮮侵略、関ヶ原合戦、茶道)		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本中・近世移行期史を素材として、地域史の視座と方法を修得させることを目標とする。人間文化学専攻社会研究分野の選択科目であるが、日本以外の地域(とくに、中国、朝鮮、東南アジア、インド、西ヨーロッパ)や歴史学以外の学問(文学や政治学など)を研究するに際しても用いることのできる研究手法を身につけることができる。		
授業の内容	16～17世紀の日本(とくに西国)に関連する史料、記録類、軍記類などを解説していくことを通じて、中・近世移行期の地域社会が東アジア世界の大きな変動という潮流の中で、どのような変容を遂げていったのか考察していく。 なお、詳細な授業内容については、第1回目の授業時に実施する各受講者の専攻内容・興味関心を踏まえて、受講者と協議のうえ決定するが、以下のような内容を想定している。 ①日本中・近世史専攻、朝鮮研究を専攻する受講生が多い場合は、豊臣秀吉の朝鮮侵略に参加した武士の日記の解説。 ②日本文学を専攻する受講生が多い場合には、日本中世を題材にした軍記類の解説、及び軍記類の記述と古文書の比較研究。 ③日本文化を専攻する受講生が多い場合は、豊臣期茶人の日記の解説。		
成績評価の方法	各受講者が担当する回のレジュメ、及び報告内容で評価する。		
テキスト	上記①のテキストは『駒井日記』(文献出版、1992年)、②は『関原軍記大成』(国史研究会、1916年)、③は『宗湛日記』(淡交社、1977年)を使用する予定である。いずれも、コピーを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	第1回目の授業時に各受講者の専攻や興味関心について発表してもらうので、事前に考えておくこと。		



授業科目名	日本地域史研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めない。随時。		
授業の形式・方式	対面授業。講義形式と演習形式を併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択, 高専免(地歴)選択		
キーワード	瀬戸内海, 中国地域, 大名領国, 大内氏, 毛利氏		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本中世の古文書による地域史研究の方法を修得させることを目標とする。人間文化学専攻社会文化研究分野の選択科目。		
授業の内容	中世の瀬戸内・中国地域を対象として、地域大名毛利氏の大名領国関係史料(武家文書・寺社文書など)を素材として使いながら、講義と演習形式を併用して、史料の正確な読解と厳密な史料批判の重要性、古文書に含まれる情報の豊かさを理解させ、原文書による地域史研究の方法を院生に習得させる。とくに院生が地域史の視点から日本史研究に取り組み、独自の研究課題を発見することができるように指導していく。		
成績評価の方法	通常の授業時間に輪番制で実施する報告60点, 随時提出させる課題レポート40点の割合で評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。史料プリントを配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本地域史研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	秋山 伸隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1924研究室		
オフィスアワー	とくに定めない。随時。		
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択, 高専免(地歴)選択		
キーワード	中国地域, 武家文書, 寺社文書, 在地文書,		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本地域史研究Ⅰをふまえて、さらに高度な地域史研究の方法を修得させることを目標とする。人間文化学専攻社会文化研究分野の選択科目。		
授業の内容	日本地域史研究Ⅰをふまえて、さらに高度な知識と方法を習得させることを目的とする。具体的には、質量ともに第一級の史料が豊富に伝存している瀬戸内・中国地域の家わけ文書(武家文書, 寺社文書, 商人・職人文書等)を素材として用い、文書群全体を史料として活用していく方法を講義と演習形式を併用しながら身につけさせる。とくに家わけ文書の保存と伝来の経緯とその背景などをふまえて、史料がさまざまな選択の結果として伝存していることを理解させ、失われた史料を意識しながら地域史を研究することの重要性を理解させる。今年度は井原家文書を素材として取り上げる。		
成績評価の方法	通常の授業時間に輪番制で実施する報告60点, 随時提出させる課題レポート40点の割合で評価する。		
テキスト	テキストは使用しない。史料プリントを配布する。参考文献は「日本地域史特論」に同じ。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修の前提条件として、「日本地域史特論」「日本地域史研究Ⅰ」を受講しておくこと。		

授業科目名	英米文化史特論		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	授業開始後に指示する		
授業の形式・方式	対面授業、演習形式と講義形式の併用。指定されたテキストや資料を読んで来て内容を発表し、クラスで議論する。最終的に独自のテーマについてレポートを書いて提出する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中学校教諭専修免許状(英語)、高等学校教諭専修免許状(英語)		
キーワード	冒険物語りとジェンダー表象、ポストコロニアリズム、オリエンタリズム、文化帝国主義階級とジェンダー、人種とジェンダー		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	帝国主義、植民地主義、ポストコロニアリズム、ジェンダー、他者の表象の問題について考察するための基礎知識を身につけるために作品と研究論文を読む。研究に必要な資料を読み込むための英語読解力を身につけ、アカデミックな議論が出来るための資料収集能力を養う。あるテーマについて分析し議論し、それをアカデミックな文章にまとめる力を養う。		
授業の内容	Anne Maclintock, <i>Imperial Leather: Race, Gender and Sexuality in the Context of the Colonial Contest</i> , Routledge, 1995. の本文、およびこの本で取り上げられたトピックに関連した文献(Rider Haggardの作品King Solomon's Minesなど)を輪読し、議論する。 他者としての女性の表象、帝国主義と人種、ジェンダーの問題、あるいはメディアの文化に与えた影響などについて議論する。		
成績評価の方法	平常点と最終レポートの評価による。		
テキスト	課題となる資料及びテキストはこちらで配布する		
参考文献	Anne Maclintock, <i>Imperial Leather</i> , Routledge		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	指定された資料やテキストを熟読の上、自分の考えをはっきりとさせた上で授業に臨む事		

授業科目名	英米文化史研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	授業開始後に指示する		
授業の形式・方式	基本的に文学作品または研究論文の輪読を行い問題点を議論する。毎週指定された範囲を読んで来て、その部分についてのまとめを発表し、クラスで討論する。最終的に独自の研究をレポートにまとめる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中学校教諭専修免許状(英語)、高等学校教諭専修免許状(英語)		
キーワード	イギリスの帝国主義と植民地主義の歴史と現代世界、ポストコロニアリズム、異文化接触、文化帝国主義、ロビンソン変形譚		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	イギリスの植民地主義が現代文化に残した遺産とは何かを、ポストコロニアリズムの立場から考える。『ロビンソン・クルーソー』に源を発する冒険物語の系譜、言い換えればロビンソン変形譚をたどり、「アドベンチャー」と「ベンチャー」の関係、青少年教育における植民地支配階級の養成といった概念、その歴史について理解を深める。特にポピュラーカルチャーの中の人種偏見、支配と被支配の構造、オリエンタリズム、ジェンダー差別の問題を読み解く事を目標としながら、履修者の研究課題との関係を探る。		
授業の内容	ダニエル・デフォー(Daniel Defoe)の『ロビンソン・クルーソー』(Robinson Crusoe)とその研究書、マーティン・グリーン(Martin Green)の『ロビンソン・クルーソー物語』(The Robinson Crusoe Story)を中心に読み、関連する文学作品、The Coral Island, Peter and Wendy, The Lord of the Fliesを取り上げて議論する。履修者はある作品をポストコロニアル的な視点から分析し、研究発表を行う。		
成績評価の方法	毎回の授業における課題の達成と、最終レポートで評価する		
テキスト	Daniel Defoe, Robinson Crusoe. Martin Green, The Robinson Crusoe Story 抜粋を配布する。		
参考文献	岩尾龍太郎『ロビンソンの砦』青土社 岩尾龍太郎『ロビンソン変形譚小史』みすゞ書房		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	資料やテキストを熟読の上、自分の考えをまとめてから授業に臨む事		

授業科目名	英米文化史研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	吉本和弘		
研究室の場所	広島キャンパス 1824研究室		
オフィスアワー	授業開始後に指示する		
授業の形式・方式	対面授業。ラファエル前派の絵画やヴィクトリア朝期の写真を鑑賞しながら、テキストの講読形式で進め、最終的にレポートを執筆し提出する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中学校教諭専修免許状(英語)、高等学校教諭専修免許状(英語)		
キーワード	ヴィクトリア朝芸術、写真術と絵画、ラファエル前派の美術運動、文学と写真術		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	イギリス美術史における写真術の登場の意味と二つの芸術形態の影響関係について検証し、メディアの発達と文化芸術との関係性について研究する。「見る」と「見られる」事における「支配」と「被支配」の関係について考察する。芸術文化の大衆化とマスメディアの勃興を特徴とするヴィクトリア朝文化についての知識を深める事によって他者としての女性の表象と写真、現代における視覚メディアの問題点についても考察する。		
授業の内容	ヴィクトリア朝期の芸術運動であるラファエル前派の絵画芸術について学ぶと同時にこの時期に発明された写真術とその歴史の変遷について学び、両者の影響関係を考える。テキストThe Pre-Raphaelite Lens, British Photography and Painting 1848- 1875、The Pre-Raphaelite Camera: Aspects of Victorian Photographyおよび、Pleasures Taken, Performance of Sexuality and Loss in Victorian Photographs を輪読しながら問題点を議論する。		
成績評価の方法	通常点と最終レポートの評価による。		
テキスト	National Gallery of Art, The Pre-Raphaelite Lens, 2011, Michael Bartram, The Pre-Raphaelite Camera: 1985とCarol Mavor, Pleasures Taken, 1995の抜粋を配布する。		
参考文献	スーザン・ソントグ、近藤耕人訳『写真論』晶文社 ロラン・バルト、花輪光訳『明るい部屋 写真についての覚え書』みすず書房		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	指定された資料の読みを確実にこなした上で授業に参加すること。		

授業科目名	日本文化史特論A		
担当教員氏名(助手氏名)	樹下 文隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1911研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講義・演習形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	日本文化, 日本文化史, 芸能, 能楽, 漫画, アニメ, サブカルチャー		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日本文化を複合的かつ客観的に捉えられるよう、古典文化と現代文化のそれぞれを扱い、日本文化の特質を考える。		
授業の内容	各種の日本発サブカルチャーが海外でブームとなり、ユネスコ世界遺産や無形文化遺産に日本の伝統的建造物や技術、芸能が数多く登録されている。このように、現代の日本文化には世界的にもその価値を認められているものが多い。しかしながら、これらの日本文化には、外、特に西洋からの評価によってその価値が認められたものも多い。現代日本のサブカルチャーと古典芸能とは見方によっては共通した要素が多いとする意見もある。世界的な評価の定まった古典芸能から能楽を、世界に展開する日本発サブカルチャーからマンガ・アニメを取り上げ、それぞれの歴史と評価を概観する中で、両者に共通するものがはたして存在するのか、何故外国人に受け入れられたのかを、受講生とともに検討していきたい。		
成績評価の方法	平常点20点、発表と期末レポート点80点で評価する。平常点は、質問や自主発表など、授業に取り組む姿勢を評価する。発表と期末レポートは、問題の所在の見つけ方、立論の仕方、調査の仕方、テーマの発展のさせ方の4項目を中心に評価する。		
テキスト	しばらくはこちらでプリントを用意する。		
参考文献	その都度指示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本文化史研究A I		
担当教員氏名(助手氏名)	樹下 文隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1911研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講読形式で進めるが、質疑応答を発展させた課題発表や自主発表も織り交ぜたい。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中世公家日記、山塊記、中山忠親		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日記・記録を単なる史料としてのみ扱うのではなく、書き手の人間性、社会的な位置、関心の持ち方等を視野に入れ、他の記録とも比較して総合的に読み解く。日記・記録の記述は、歴史事実を客観的に羅列する作業ではなく、内容の取舍選択を初めとして、書き手の意志が反映された創作活動であることを理解できるようにする。社会文化研究分野に位置付けられる選択科目として、日記・記録を取り扱う際の基本的な姿勢を養うことを目指す。		
授業の内容	現代日本文化の根幹を形成する日本的特性は、中世前期までにその萌芽を見、中世後期に形成され、近世においてはほぼ達成されたという文化史的観点に立ち、中世前期の変動の時代を生きた人々の生活や思考を通して日本文化の本質に迫ろうとする。具体的には、当時の人々の日記・記録を、思想・文学・芸能・美術・風俗・慣習などの文化的産物を視野に入れつつ読み解くことで、日本文化の形成、外来文化の受容、古典文化への憧憬、政治と文化、経済と文化、社会構造と文化、宗教と文化、文化の普及などのテーマに即して、問題の所在を発見できるようにする。今年度は、中山忠親の日記『山塊記』を取り上げる。		
成績評価の方法	平常点（担当箇所の講読及び発表）と課題レポートで評価する。		
テキスト	テキストは、『山塊記』（増補史料大成）を用いる。		
参考文献	『平家物語』『玉葉』等。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本文化史研究AⅡ		
担当教員氏名(助手氏名)	樹下 文隆		
研究室の場所	広島キャンパス 1911研究室		
オフィスアワー	研究室ドアに掲示する。		
授業の形式・方式	対面授業。講読形式で進めるが、質疑応答を発展させた課題発表や自主発表も織り交ぜたい。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	中世公家日記、実隆公記、三条西実隆		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	日記・記録を単なる史料としてのみ扱うのではなく、書き手の人間性、社会的な位置、関心の持ち方等を視野に入れ、他の記録とも比較して総合的に読み解く。日記・記録の記述は、歴史事実を客観的に羅列する作業ではなく、内容の取捨選択を初めとして、書き手の意志が反映された創作活動であることを理解できるようにする。日本文化史研究AⅠの内容から継続して実施し、社会文化研究分野に位置付けられる選択科目として、日記・記録を取り扱う際の基本的な姿勢を養うことを目指す。		
授業の内容	現代日本文化の根幹を形成する日本的特性は、中世前期までにその萌芽を見、中世後期に形成され、近世においてほぼ達成されたという文化史的観点に立ち、中世近世を生きた人々の生活や思考を通して日本文化の本質に迫ろうとする。具体的には、当時の人々の日記・記録を、思想・文学・芸能・美術・風俗・慣習などの文化的産物を視野に入れつつ読み解くことで、日本文化の形成、外来文化の受容、古典文化への憧憬、政治と文化、経済と文化、社会構造と文化、宗教と文化、文化の普及などのテーマに即して、問題の所在を発見できるようにする。今年度は、三条西実隆の日記『実隆公記』を取り上げ、文明7年(1475)を読んでいく。		
成績評価の方法	平常点(担当箇所の講読及び個別発表)と課題レポートで評価する。		
テキスト	『実隆公記』(続群書類従完成会本)より、該当箇所を複写したものを提供する。		
参考文献	『大日本史料 第八編之七』、増補続史料大成『親長卿記 一』(他に史料纂集本もある)、史料纂集『言国卿記 第一』(続群書類従完成会)等。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	原勝郎『東山時代の一縉紳の生活』(講談社学術文庫、1978ただし絶版。ITサイト「あおぞら文庫」にあり)芳賀幸四郎『三条西実隆』(吉川弘文館歴史人物叢書、1987)など、三条西実隆に関する伝記を一読しておくことが望ましい。また、余力があれば、芳賀幸四郎歴史論集(全5冊、思文閣出版、1981。特に『東山文化の研究』と『中世文化とその基盤』)、宮川葉子『三条西実隆と古典学』(風間書房、1999)などの研究書に眼を通していただきたい。その他の参考文献はその都度指示する。		



授業科目名	日本文化史特論B		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。講義と演習を併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(地歴)選択		
キーワード	日本中世、瀬戸内海、港湾、港町、水運、流通、交流、考古学、遺跡、遺物		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	近年進展の著しい中世考古学の研究成果を踏まえ、中世瀬戸内海地域をめぐる水運・物流・交流に関する研究の現状を主要論文から学ぶとともに、その成果を批判的に継承し、自らの独創的な視点を確立する。		
授業の内容	中世における瀬戸内海をとりまく地域の水運・港町・流通・交通に関する代表的な論文を取り上げ、受講者が相互に分析・検討を加えながら読み進め、その論点や問題点を批判的な視点から発表する。		
成績評価の方法	討議への参加の度合いと、期末レポートによって評価する。期末レポートは、研究史的に理解できているか、それを批判的に継承できているかを評価する。		
テキスト	特定のテキストは使用しない。資料を配付する。		
参考文献	市村高男ほか編『中世讃岐と瀬戸内世界(港町の原像：上)』岩田書院、橋本久和ほか編『中世西日本の流通と交通―行き交うヒトとモノ―』高志書院		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本文化史研究B I		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室時は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。講義と演習を併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(地歴)選択		
キーワード	日本中世、食文化、食器、煮炊具、都市、身分、儀礼、共同飲食		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生きていく上で不可欠な「食」をめぐる文化に対する関心・理解を深め、食文化の伝統性が歴史的に形成されていること気付く。古代末から中世にかけての食文化を復元するなかから、元代の食文化との関連性を考察する力を高める。		
授業の内容	参考文献として挙げた中世食文化に関する諸論文を取り上げ、相互に紹介・批判を加えるなかから、当該テーマに関する研究の現状と今後の課題を明らかにしていく。		
成績評価の方法	討議への参加の度合いと、期末レポートによって評価する。期末レポートは、論点を的確に把握できているか、それを批判的に継承できているかを評価する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	国立歴史民俗博物館編『国立歴史民俗博物館研究報告 第71集 中世食文化の基礎的研究』国立歴史民俗博物館		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	日本文化史研究B II		
担当教員氏名(助手氏名)	鈴木 康之		
研究室の場所	広島キャンパス 1912研究室		
オフィスアワー	研究室に在室中は基本的に対応可。事前にメール等で連絡することが望ましい。		
授業の形式・方式	対面授業。講義と演習を併用する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(地歴)選択		
キーワード	日本中世、食文化、食器、煮炊具、都市、身分、儀礼、共同飲食		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生きていく上で不可欠な「食」をめぐる文化に対する関心・理解を深め、食文化の伝統性が歴史的に形成されていること気付く。古代末から中世にかけての食文化を復元するなかから、元代の食文化との関連性を考察する力を高める。「日本文化史研究B I」の内容を発展させたもの。		
授業の内容	「日本文化史研究B I」で取り上げた論文に関連する諸論文を取り上げ、相互に紹介・批判を加えるなかから、当該テーマに関する研究の現状と今後の課題を明らかにしていく。		
成績評価の方法	討議への参加の度合いと、期末レポートによって評価する。期末レポートは、論点を的確に把握できているか、それを批判的に継承できているかを評価する。		
テキスト	プリントを配布する。		
参考文献	授業で適宜紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア社会文化特論		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広		
研究室の場所	広島キャンパス 1715研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免(社会)選択、高専免(公民)選択		
キーワード	東アジア 社会文化 社会調査 多変量解析		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	(授業の目標) 東アジアの社会文化の現状および変動を調査データから読み取る力を見つける。 (カリキュラム上の位置付け) 本科目は人間文化学専攻の社会文化研究分野の科目である。		
授業の内容	東アジア(特に中国と日本) 東アジア社会文化研究方法の一つとして社会調査の方法及びそのデータ解析のための社会統計学的手法を学ぶ。具体的には、調査データの分析方法を学んだ上で、実際の調査データを分析する。		
成績評価の方法	期末試験(レポート) 100%の割合で評価する。		
テキスト	社会統計学—社会調査のためのデータ分析入門		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア社会文化研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広		
研究室の場所	広島キャンパス 1715研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。授業時間 2 時間（1 回）と学生の自習 4 時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2 年次対象		
免許等指定科目	中専免（社会）選択、高専免（公民）選択		
キーワード	消費、東アジア、子供服、携帯電話		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	（授業の目標）日中の現代文化に関する知識と観点を身につける。（カリキュラム上の位置付け）本科目は人間文化学専攻の社会文化研究分野の科目であり、東アジアの価値観のあり方および文化を捉える分析視角を学ぶ能力の養成を行う科目として位置づけられる。		
授業の内容	近代化のプロセスにおいて消費文化は高度化し、社会やそこで生活する人々に大きな影響を与えたが、東アジアもその例外ではない。この授業では、日本と中国におけるアパレル関連商品における有名ブランド消費、少子化時代におけるキッズマーケットの拡大、育児雑誌の内容の変化、携帯電話の使用法の変遷といった諸事象について、文献資料や調査資料などを分析し、その結果を消費社会論の観点から考察することで、グローバル化時代の東アジアの社会へアプローチする。		
成績評価の方法	期末試験（レポート）100%の割合で評価する。		
テキスト			
参考文献			
備 考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	東アジア社会文化研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	富田 和広		
研究室の場所	広島キャンパス 1715研究室		
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業。演習形式。授業時間2時間（1回）と学生の自習4時間を想定した授業を行う。		
単位数(時間数)	2単位（30時間）	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目	中専免（社会）選択、高専免（公民）選択		
キーワード	中国、家族、戦略		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>（授業の目標）中国の家族に関する知識と分析方法を身につける。  （カリキュラム上の位置付け）本科目は人間文化学専攻の社会文化研究分野の科目であり、中国において築き上げられてきた価値観のあり方および文化を捉える分析視角を学ぶ能力の養成を行う科目として位置づけられる。</p>		
授業の内容	<p>中国の社会変動と家族の関係について学ぶ。 民国期から解放、工業化、市場経済化のプロセスは、中国の家族に大きな影響を与えた。本授業では、中国家族がどのような戦略を持って、変動期の社会を生き残ろうとしてきたのかについて、学生自らが、具体的な教育投資、婚姻、相続に関する多量のデータを分析し、結果をP. ブルデュエ戦略概念を用いて考察し、その生き残り戦略を明らかにすることによって、背景にあるハビトゥス、心性といったものにアプローチする。</p>		
成績評価の方法	期末試験（レポート）100%の割合で評価する。		
テキスト	テキストなし。		
参考文献	富田和広, 1993, 『現代中国社会の変動と中国人の心性』 行路社。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	食品学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
授業の形式・方式	演習方式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食品科学、食品加工学、食品衛生学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	最新論文の講読、発表、討論などを通じて、管理栄養士として必要な食品学諸領域の問題、研究方法を考究する。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1) 食品学の諸問題およびその研究方法を抽出できる。(2) それらの内容について記述されている論文を選択し、内容を理解することができる。(3) 論文の内容について発表し、質問に対して自分の意見を述べるができる。本科目は、人間文化学専攻・栄養科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	食品学諸領域(食品化学、食品科学、食品機能学、食品加工学、食品衛生学)の論文を講読し、発表を行い、これについて討論する。		
成績評価の方法	論文の理解度(50%)、発表および討論の内容(30%)、討論への参加度(20%)を総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて『複写資料教材』を配布する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教学ポータルのお知らせ配信、教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	食品学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
授業の形式・方式	演習方式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食品科学、食品加工学、食品衛生学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	食品学特論で学んだ内容をさらに深め発展させることを目的とする。最新論文の講読、発表、討論などを通じて、食品を対象とする研究者として必要な食品学諸領域の問題、研究方法を考究する。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。 (1) 食品学の諸問題およびその研究方法を抽出できる。(2) それらの内容について記述されている論文を選択し、内容を理解することができる。(3) 論文の内容について発表し、質問に対して自分の意見を述べるができる。本科目は、人間文化学専攻・栄養科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	食品学諸領域(食品化学、食品科学、食品機能学、食品加工学、食品衛生学)の論文を講読し、発表を行い、これについて討論する。		
成績評価の方法	論文の理解度(50%)、発表および討論の内容(30%)、討論への参加度(20%)を総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて『複写資料教材』を配布する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡、教学システムのお知らせ配信によって行う。		



授業科目名	食品学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
授業の形式・方式	演習方式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食品科学、食品加工学、食品衛生学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	食品学研究Ⅰで学んだ内容をさらに深め発展させることを目的とする。最新論文の講読、発表、討論などを通じて、食品を対象とする研究者として必要な食品学諸領域の問題、研究方法を考究する。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1)食品学の諸問題およびその研究方法を抽出できる。(2)それらの内容について記述されている論文を選択し、内容を理解することができる。(3)論文の内容について発表し、質問に対して自分の意見を述べるができる。本科目は、人間文化学専攻・栄養科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	食品学諸領域(食品化学、食品科学、食品機能学、食品加工学、食品衛生学)の論文を講読し、発表を行い、これについて討論する。		
成績評価の方法	論文の理解度(50%)、発表および討論の内容(30%)、討論への参加度(20%)を総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて『複写資料教材』を配布する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡、教学システムのお知らせ配信によって行う。		

授業科目名	食品学研究Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	谷本 昌太		
研究室の場所	広島キャンパス 1536研究室		
オフィスアワー	特に定めていません。研究室に来て声をかけてみてください。		
授業の形式・方式	演習方式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	食品科学、食品加工学、食品衛生学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	食品学研究Ⅱで学んだ内容をさらに深め発展させることを目的とする。最新論文の講読、発表、討論などを通じて、食品を対象とする研究者として必要な食品学諸領域の問題、研究方法を考究する。また、本科目の目標は、下記の項目についてできることである。(1)食品学の諸問題およびその研究方法を抽出できる。(2)それらの内容について記述されている論文を選択し、内容を理解することができる。(3)論文の内容について発表し、質問に対して自分の意見を述べるができる。本科目は、人間文化学専攻・栄養科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	食品学諸領域(食品化学、食品科学、食品機能学、食品加工学、食品衛生学)の論文を講読し、発表を行い、これについて討論する。		
成績評価の方法	論文の理解度(50%)、発表および討論の内容(30%)、討論への参加度(20%)を総合的に評価する。		
テキスト	必要に応じて『複写資料教材』を配布する		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡、教学システムのお知らせ配信によって行う。		

授業科目名	食品化学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	上野 聡 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	講義形式。ただし講義中に内容理解のための簡単な演習問題を随時加える。また、時折、授業の内容に関するデモンストレーション実験(30分以内)を行う予定。講義の途中で、レポート課題を提示する予定(15回の講義中、2回の予定)。期末には試験を行う。この試験とレポートにより成績評価を行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	相図(状態図)、相転移、多形、エンタルピー、エントロピー、自由エネルギー、結晶、アモルファス、分子間相互作用(水素結合など)、デンプンの糊化と老化、ガラス状態、トリアシルグリセロール、必須脂肪酸、固体脂食品(チョコレート、マーガリン)、表面張力、界面活性剤、エマルション、濡れ、泡、テクスチャー、おいしさ		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	食品の科学的理解には、栄養素としての機能を理解する生化学的・栄養学的側面のみならず、嗜好や美味しさとしての機能を理解するためのテクスチャーや味覚が重要である。このうちテクスチャーの理解には物理化学的側面の学識が極めて重要である。テクスチャーの理解は、食品製造の観点からも見逃せない。本科目では、主として、脂質の化学について講述し、加えて脂質の物理化学を例に挙げながら、食品の美味しさの基礎としてのテクスチャーを理解するための食品の物理化学や食品工学の基礎の修得を目的とする。特に物理化学に重点を置いて講義を行う。本講義により、食品のテクスチャーに関する研究論文を読みこなす基礎力を修得することができる。		
授業の内容	第1講 イントロダクションー食品化学特論とはー 第2講 物質の三態と相互作用1 第3講 物質の三態と相互作用2ー溶解・融解・結晶化ー 第4講 水の物理と化学 第5講 タンパク質の物理化学 第6講 炭水化物の物理化学ー糊化と老化ー 第7講 脂質の物理化学1ー炭化水素と脂肪酸ー 第8講 脂質の物理化学2ーアシルグリセロールー 第9講 脂質の物理化学3ーリン脂質ー 第10講 チョコレートの物理化学 第11講 マーガリンの物理化学 第12講 エマルションの基礎1ー界面張力ー 第13講 エマルションの基礎2ー界面活性剤ー 第14講 エマルションの基礎3ーO/Wエマルションー 第15講 濡れと泡立ちーシャボン玉とホイップクリーム		
成績評価の方法	期末試験(80%)とレポート(20%)により総合的に評価する。期末試験は、試験期間内に実施する。また、レポートは、講義期間中に(15回の講義中に)2回提出してもらう。レポートテーマ等は、講義時間内に説明する。		
テキスト	なし(毎回の講義時に各回ごとのプリントを配布する)。		
参考文献	松野隆一・矢野俊正 編 『食品物理化学』文永堂出版、1996。 平澤猛男 著 『水と油のはなしー暮らしを支える界面の科学ー』技報堂出版、2000。 佐藤清隆・上野 聡著 『脂質の機能性と構造・物性ー分子からマスカラ・チョコレートまで』丸善出版、2011。		
備考(履修上のアドバイス・禁止行為等)	初回講義時に、本講義のガイダンスを行う。 毎回その日の講義内容を記したプリントを配布する。		

授業科目名	基礎・応用栄養学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	テキストに基づく講読演習形式、文献抄読によるディスカッション形式。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	栄養, エネルギー代謝, 運動		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、栄養と運動に関する生理学的な基礎知識をもつことを想定し、スポーツ栄養学に関連する専門書や最新の研究論文を講読する。本科目は、人間文化学専攻・栄養科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	栄養と運動に関連する専門書や総説を中心とした研究論文を講読し、まとめて発表し、ディスカッションをする。この演習を通じて、スポーツ栄養の知識を深め、解明すべき課題について考える。		
成績評価の方法	出席状況(20%)、課題レポート(30%)、課題発表および討論の内容(30%)、討論への参加度(20%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	教科書は使用しない。適宜、参考資料を配布・提示する。		
参考文献	授業内で提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は、正式には教学課の提示、学生に対する授業内での連絡によって行う。社会人大学院生が受講する場合、授業実施について対応が必要な場合は、履修前に面談を行い、授業形式について話し合うこととする。		

授業科目名	基礎・応用栄養学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時, これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	テキストに基づく講読演習形式, 文献抄読によるディスカッション形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	栄養生理学, 運動生理学, スポーツ栄養, 研究手法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では, 栄養と運動に関する生理学的な基礎知識をもつことを想定し, テキストを用いた講読演習形式で授業を進める。また, スポーツ栄養学に関する研究論文を紹介し, セミナー形式でプレゼンテーションする場も設ける。本科目は, 人間文化学専攻・栄養科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	栄養生理学や運動生理学に関する基礎的な理解を深めるために, 関連する専門書や総説を中心とした研究論文を講読する。また, 運動と栄養に関連する自身の興味ある原著論文をまとめて紹介し, ディスカッションをする。この演習を通じて, スポーツ栄養学に関する研究背景や研究手法を把握し, 研究アイデアの立案と研究方法について考える。		
成績評価の方法	出席状況 (20%), 課題レポート (30%), 課題発表および討論の内容 (30%), 討論への参加度 (20%) を総合的に判断して評価する。		
テキスト	教科書は使用しない。複写資料教材, 研究論文等を適宜, 授業時に配布する。		
参考文献	授業内で提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は, 正式には教学課の提示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。社会人大学院生が受講する場合, 授業実施について対応が必要な場合は, 履修前に面談を行い, 授業形式について話し合うこととする。		

授業科目名	基礎・応用栄養学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	文献抄読によるディスカッション形式の演習		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	栄養, 消化吸収, エネルギー代謝, 運動, 研究手法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では, ヒトの運動時の消化吸収を理解するために必要な知識を体系的に学ぶことである。本科目は, 人間文化学専攻・栄養科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	運動時の消化吸収に関する最新の研究論文をまとめてプレゼンテーションし, ディスカッションをする。この演習を通じて, 具体的な研究テーマを設定し, 研究計画を立案し, 研究成果を発表し, 論文化するための基礎を修得する。		
成績評価の方法	出席状況(20%), 課題発表および討論の内容(50%), 討論への参加度(30%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	教科書は使用しない。抄読用の論文等を適宜, 授業時に配布する。		
参考文献	授業内で提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は, 正式には教学課の提示, 学生に対する授業内での連絡によって行う。社会人大学院生が受講する場合, 授業実施について対応が必要な場合は, 履修前に面談を行い, 授業形式について話し合うこととする。		

授業科目名	基礎・応用栄養学研究Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	山岡 雅子		
研究室の場所	広島キャンパス 1448研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	ゼミ形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	スポーツ栄養, 研究手法, 論文のまとめ方		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目は、受講者の修士論文の背景、結果と考察に関するスポーツ栄養学および生理学的理解をディスカッション形式で高めることである。本科目は、人間文化化学専攻・栄養科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	受講者の修士論文のテーマに関連する論文や専門書をまとめて紹介し、ディスカッションをすることで、知見を深め修士論文の完成を目指す。		
成績評価の方法	出席状況(20%)、課題発表および討論の内容(50%)、討論への参加度(30%)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	教科書は使用しない。研究論文等を適宜、授業時に配布する。		
参考文献	授業内で提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は、正式には教学課の提示、学生に対する授業内での連絡によって行う。社会人大学院生が受講する場合、授業実施について対応が必要な場合は、履修前に面談を行い、授業形式について話し合うこととする。		

授業科目名	臨床栄養教育特論		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。一部、演習方式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	栄養管理、栄養療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	学部で学んだ 基礎栄養学、応用栄養学、臨床栄養学、栄養教育論、給食経営管理論などの知識を活用し、症例検討を通し知識の融合を計る。		
授業の内容	病院や福祉施設においては、栄養管理を行う機会が増えてきている。このような実践の場での、議論に対応していくことのできるように症例を通し栄養療法、薬物療法を検討する。		
成績評価の方法	出席状況、プレゼンテーション、課題レポートを基に総合的に評価する。		
テキスト	授業内で指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	臨床栄養教育研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。一部、演習方式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	栄養管理、栄養療法、嚥下障害、低栄養		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	日本で増加している嚥下機能の低下による誤嚥性肺炎を起こさない食品や液体の物性について学ぶ。		
授業の内容	肺炎は日本の死亡原因の4位である。なかでも、誤嚥性肺炎が増加している。誤嚥性肺炎の原因の1つは、嚥下機能障害により、食物や飲み物が肺に入ることによる。このような場合、適正な物性の食事を提供する必要がある、本科目においては、嚥下障害者の適切な食事物性について学ぶ。		
成績評価の方法	出席状況, プレゼンテーション内容, ディスカッションの内容を基に総合的に評価する。		
テキスト	授業内で指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	臨床栄養教育研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。一部、演習方式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	栄養管理、栄養療法、低栄養		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	病院に入院している患者の40%は血清アルブミン3.5g/dl以下の低栄養状態である。低栄養状態との関連する因子について学び、栄養状態の低下を早期に発見する。		
授業の内容	栄養状態の評価には、栄養スクリーニングの項目立てが重要である。栄養スクリーニングの項目を立てる場合の候補となるような、低栄養に関連する因子を分析する。また、適切なエネルギー補給量の推定方法についても学ぶ。		
成績評価の方法	出席状況, プレゼンテーション内容, ディスカッションの内容を基に総合的に評価する。		
テキスト	授業内で指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	臨床栄養教育研究Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	栢下 淳		
研究室の場所	広島キャンパス 1535研究室		
オフィスアワー	在室時は可 場所は担当教員研究室		
授業の形式・方式	対面授業。一部、演習方式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	栄養管理、栄養療法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	栄養管理方法においては、米国や欧州からの情報を参考とすることも多い。本科目においては、米国と日本での栄養管理方法の違いを学ぶ。		
授業の内容	1つの疾患について、米国と日本の栄養管理方法の違いを学ぶ。対象疾患については、受講者の希望を考慮する。		
成績評価の方法	出席レポート、プレゼンテーション、課題レポートを基に総合的に評価する。		
テキスト	授業内で指示する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	給食経営管理特論		
担当教員氏名(助手氏名)	杉山 寿美		
研究室の場所	広島キャンパス 1626研究室		
オフィスアワー	基本的にはいつでも可。事前の連絡を望みます。		
授業の形式・方式	対面形式。講義と演習を併用する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。学生は、授業に出席すること、課題のレポートを作成・提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	品質保証、システムの構築、標準化、食事		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	給食提供の目的は、喫食者に食物選択行動の自己管理能力を身につけさせ、心身の発達・発育、健康維持・増進、疾病の治療・予防などを行うことである。本科目では、特定給食施設において【リスクマネジメントに基づいて、喫食者が給食に求める品質を保証した食事を提供する】視点をもつこと、そこに存在する諸問題を科学的に解析・解決するための基礎を身につけることを目的とする。		
授業の内容	特定給食施設における給食提供は、アセスメント、食事生産、栄養教育という一連の流れの中で行われる。一方、喫食者一人ひとりに合わせた献立構成であること、日々異なる献立構成であることなどに由来して給食の生産工程は非常に複雑である。故に「病院等の食事はおいしくない」といわれ、提供される食事がアセスメントや栄養教育にプラスの効果を果たしているとは必ずしもいえない。加えて、リスクマネジメントの理解も十分とはいえない。 本科目では、給食の品質保証の観点から食事の生産工程を科学的に解析し、食事管理能力の高度化を図る。具体的には、講義、論文講読、プレゼンテーション、ディスカッションにより行う。 なお、本科目を理解するためには、食品学、食品加工学、調理科学の知識は不可欠である。		
成績評価の方法	課題レポートとディスカッション時の質疑応答の内容を総合的に評価する。		
テキスト	授業で配布あるいは指示する。		
参考文献	給食マネジメント論(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015(第一出版)、日本人の食事摂取基準2015の実践・運用(第一出版)		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	給食経営管理論に関する内容を復習しておくこと。		

授業科目名	公衆衛生学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	安武 繁		
研究室の場所	三原キャンパス3510室		
オフィスアワー	(随時)		
授業の形式・方式	対面方式を主としますが、遠隔授業を行う場合があります。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	健康危機管理、食中毒対応および予防、食品の安全確保		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	健康危機管理事案(食中毒など)を詳細に検討し教訓を得ることにより、県民の安全確保および健康危機の未然防止のために必要な公衆衛生対策を理解する。		
授業の内容	課題レポートの内容に関連した講義およびディスカッション、レポート作成指導、レポート発表		
成績評価の方法	課題レポートの提出および発表		
テキスト	特に指定しません。		
参考文献	『保健所研修ノート 第3版』(医歯薬出版、安武 繁 著、2014年)		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	社会人大学院生の方など時間割をできるだけ日程調整して対応します。		

授業科目名	公衆栄養学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	森脇 弘子		
研究室の場所	広島キャンパス 1442研究室		
オフィスアワー	在室時はいつでも可(事前連絡を望む)。		
授業の形式・方式	対面授業。 発表・討論など演習形式で行う。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	ヘルスプロモーション、公衆栄養マネジメント、公衆栄養活動、栄養行政、栄養関係法規		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	人のQOLの向上を目指した公衆栄養学の理論と実践活動について、自立して研究するための基礎を学ぶ。 栄養科学研究分野に属している選択科目である。		
授業の内容	<p>主な内容は次のとおりである。学部で学んだ基礎知識を統合、さらに発展させる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆栄養学の概念</li> <li>2 健康・栄養問題の現状と課題</li> <li>3 栄養政策</li> <li>4 栄養疫学</li> <li>5 公衆栄養マネジメント</li> <li>6 公衆栄養プログラムの展開</li> </ol> <p>具体的な内容は希望に応じる。</p>		
成績評価の方法	授業への参加状況(発表、討論)とレポートにより評価する。		
テキスト	適宜、教材を配付・提示する。		
参考文献	World Health Organization: Health Promotion Glossary 授業中に提示する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	臨床代謝学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	佐伯 正弦 (非常勤講師)		
研究室の場所			
オフィスアワー			
授業の形式・方式	対面授業		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	エネルギー代謝、ミトコンドリア、時計遺伝子、核内受容体、アディポサイトカイン、NST活動、脂肪細胞、活性酸素、生活習慣病、メタボリックシンドローム、肥満、食欲、睡眠、T.P.N、胃瘻、時間栄養学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	生体内代謝を理解し、栄養学と医学との連携を図り、NST活動など臨床医療現場で活躍できる管理栄養士の資質を高める。		
授業の内容	生体内代謝を理解し、栄養学と医学との連携を図り、NST活動など、臨床医療現場で活躍できる管理栄養士の資質を高める。そのため授業の前半では生体内代謝と医学の基礎的知識、各疾患の概念、医学用語、データの読解などを習得していただく。また生体内代謝を理解し、栄養学を分子生物学的にも理解できるように、栄養を時計遺伝子、核内受容体など生化学的な方向からも捉えていく。時間栄養学という新しい栄養学の考え方を生体内代謝をもとに学び、医学、医療へのどのような応用が可能なかを考えていく。代謝、並びに栄養学という学問をサイエンスを介して分析し、時間というファクターがどのように健康にかかわるかを学ぶ。また講座においては、理論だけではなくNST活動での実践訓練となる模擬NST演習も行い、将来の管理栄養士の実務に直結した授業を行っていく。		
成績評価の方法	課題レポート70%、実践演習評価30%で評価する(課題レポート毎回ではないが、ある際は授業の最後に提示し、レポート提出期限は通常は次回授業の開始とする。)		
テキスト	資料は各授業開始時に配布する。		
参考文献	最新内分泌代謝学ハンドブック 三原医学社 著者：越山 裕行 マッキーの生化学 化学同人 臨床栄養管理、建帛社。検査値に基づいた栄養指導、チーム医療。NST完全ガイドー栄養療法の基礎と実践、著者：東口高志。輸液を学ぶ人のために 第3判医学書院、著者：和田孝雄、近藤和子		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業では医学用語を使うことが多々あるため、少なくともメタボリックシンドローム、生活習慣病と関連する主な疾患群(糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満症)の基礎知識は予習して、把握しておいていただくことが望ましい。		

授業科目名	生体分子解析学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	菅原 芳明		
研究室の場所	広島キャンパス 1516研究室		
オフィスアワー	月～金曜日の10時から17時。担当教員研究室。在室時は、常時可。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、講義形式で実施する。講義内容に関わるレポート課題を課し、提出のレポートをもとにディスカッション行なう。受講者は、授業に出席し、レポートの作成・提出が義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	クロマトグラフィー, タンパク質, 分離精製, 分光計測, スペクトル, 酵素反応論, 反応速度論, 熱力学, 分子生理学		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	生体の主たる構成要素である「タンパク質」レベルで生体機能を理解するために必要となる基本的な考え方や解析手法(タンパク質の分離精製法, 分光計測法, 反応速度論, 熱力学的解析手法, 分子生理学的手法等)について学ぶ。なお, この授業の受講を通して, 学生は, 『Think scientifically and make scientific reports』に関する, より深いまた高度な態度や技能を身に付け得る。		
授業の内容	生体における生理機能について, 生体の主たる構成要素であるタンパク質を取り上げ, 生理機能をタンパク質レベルで解明する際に必要とされる物理化学的手法・分子生理学的手法を中心に据えた教育研究を行う。具体的には, タンパク質を分離精製するための基本原理と個々のタンパク質を取り上げ実際にどのような分離精製手法が使用されたかの具体的事例の検討・検証, 生体反応解析のための分光計測法, 反応速度論, 反応の熱力学の基本原理と実際に則したそれら解析手法の応用事例の検討・検証を通して, 教育研究を行う。		
成績評価の方法	課題レポートの内容とディスカッション時の質議応答の内容を総合的に評価する。		
テキスト	授業に必要な資料・文献は, 配布プリントととして, 授業開始時, 授業中に適宜配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業用ホームページ等は, 特に開設してはいません。ただし, 授業内容に関わる質問は, 授業中, 授業終了後, いつでも受け付けますので, ご遠慮なく。研究室も, 授業受講者には, 基本的には常時”オープン”です。授業の内容以外の質問等の場合でも, 遠慮なく, 研究室をお訪ね下さい。		



授業科目名	生体分子解析学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	菅原 芳明		
研究室の場所	広島キャンパス 1516研究室		
オフィスアワー	月～金曜日の10時から17時。担当教員研究室。在室時は、常時可。		
授業の形式・方式	英文論文（授業担当者の原著論文）の輪読		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	<p>「生体分子解析学研究 I」は、健康管理科学研究分野の授業科目の一つである。健康管理科学研究分野の主たる目的は、疾病予防や健康管理のありかたについて、一次予防（予防医学）の視点に立脚したより専門的な教育・研究を行うことにある。</p>		
授業の内容	<p>本授業では上記に資するため、授業担当者の原著論文である「Molecular biosensing mechanisms in the spleen for the removal of aged and damaged red cells from the blood circulation」(Sensors, 2010, vol. 10, pp7099-7121)をテキストとして取り上げる。その上で、生体分子解析学的視点に立脚したしながら、「不安定性ヒトヘモグロビン症」、「G-6-PD欠損症」、「悪性マラリア」等の疾病が赤血球中のヒトヘモグロビン分子中に本来備わる「molecular biosensing mechanisms」とどう関わるのか、はたまた脾臓 (spleen) はこのことにどのような本質的な関係性を持つっているのか等について、概説する。併せて、修士課程における研究の進め方や修士論文の書き方について、上記をテキストとして用いることにより、より具体的なイメージアップが可能となる。</p>		
成績評価の方法	Y. Sugawara, Y. Hayashi, Y. Shigemasa, Y. Abe, I. Ohgushi, E. Ueno, and F. Shimamoto: 「Molecular biosensing mechanisms in the spleen for the removal of aged and damaged red cells from the blood circulation」(Sensors, 2010, vol. 10, pp7099-7121)		
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	生体分子解析学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	菅原 芳明		
研究室の場所	広島キャンパス 1516研究室		
オフィスアワー	月～金曜日の10時から17時。担当教員研究室。在室時は、常時可。		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「生体分子解析学研究Ⅱ」は、健康管理科学研究分野の授業科目の一つである。健康管理科学研究分野の主たる目的は、疾病予防や健康管理のありかたについて、一次予防(予防医学)の視点に立脚したより専門的な教育・研究を行うことにある。本授業では上記に資するため、授業担当者の原著論文である「New Roles Assigned to the <math>\alpha 1-\beta 1</math> (and <math>\alpha 2-\beta 2</math>) Interface of the Human Hemoglobin Molecule from Physiological to Cellular」(Applied Science, 2011, vol. 1, pp13-55)をテキストとして取り上げ、生体分子解析学的視点に立脚したしながら、「不安定性ヒトヘモグロビン症」、「G-6-PD欠損症」、「悪性マラリア」等の疾病と赤血球中に存在するヒトヘモグロビン分子中のthe <math>\alpha 1-\beta 1</math> (and <math>\alpha 2-\beta 2</math>) Interface がどのような関わりをもっているのかについて概説する。</p>		
授業の内容	<p>本授業では、上記に資するため、授業担当者の原著論文である「New Roles Assigned to the <math>\alpha 1-\beta 1</math> (and <math>\alpha 2-\beta 2</math>) Interface of the Human Hemoglobin Molecule from Physiological to Cellular」(Applied Science, 2011, vol. 1, pp13-55)をテキストとして取り上げ、生体分子解析学的視点に立脚したしながら、「不安定性ヒトヘモグロビン症」、「G-6-PD欠損症」、「悪性マラリア」等の疾病と赤血球中のヒトヘモグロビン分子のthe <math>\alpha 1-\beta 1</math> (and <math>\alpha 2-\beta 2</math>) Interface がどのような関わりをもっているのかについて概説する。併せて、修士課程での研究の進め方ならびに修士論文の書き方について、上記をテキストとすることにより、より具体的なイメージアップが可能になる。</p>		
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	生体分子解析学研究Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	菅原 芳明		
研究室の場所	広島キャンパス 1516研究室		
オフィスアワー	月～金曜日の10時から17時。担当教員研究室。在室時は、常時可。		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード			
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	<p>「生体分子解析学研究Ⅲ」は、健康管理科学研究分野の授業科目の一つである。健康管理科学研究分野の主たる目的は、疾病予防や健康管理のありかたについて、一次予防（予防医学）の視点に立脚したより専門的な教育・研究を行うことにある。本授業では上記に資するため、授業担当者の原著論文である「Relationship between mood change, odour and its physiological effects in humans while inhaling the fragrances of essential oils as well as linalool and its enantiomers」(Molecules, 2013, vol. 未定, pp. 未定)をテキストとして用いることにより、生体分子解析学的視点に立脚したしながら、代替療法（医薬品を用いないでその代替を用いる治療法）としてのエッセンシャルオイルの有用性ならびにアロマセラピー（芳香療法）について概説する。</p>		
授業の内容	<p>本授業では、上記の授業目標に資するため、授業担当者の原著論文である「Relationship between mood change, odour and its physiological effects in humans while inhaling the fragrances of essential oils as well as linalool and its enantiomers」(Molecules, 2013, vol. 未定, pp. 未定)をテキストとして用いる。上記の原著論文をテキストとして用いることにより、生体分子解析学的視点に立脚したしながら、代替療法（医薬品を用いないでその代替を用いる治療法）としてのエッセンシャルオイルの有用性ならびにアロマセラピー（芳香療法）について概説する。併せて、修士過程における研究の進め方ならびに修士論文の書き方について本テキストを用いることにより、実際に即した形で講述することが出来る。</p>		
成績評価の方法			
テキスト			
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	病理学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	嶋本 文雄		
研究室の場所	広島キャンパス 1426研究室		
オフィスアワー	特になし。在室中はいつでも可能		
授業の形式・方式	対面授業。教科書にしたがって講義形式で実施する。必要に応じてスライド並びにプリントを用いる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	病理学、病気、遺伝子異常、機能異常、細胞組織異常、消化器系疾患（ヘリコバクター感染、肝炎、クローン病、潰瘍大腸炎、肝臓、胃癌、大腸癌）、前癌性病、境界病変、分子病理学的形態的異常、病理診断		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	代表的な疾患について、組織形態、生化学的、分子病理学的に理解することを目標とする。本科目は、生体機能に区分されている。管理栄養士養成施設のカリキュラムには、専門基礎分野の教育内容の一つとして「人体の構造と機能。疾患の成り立ち」の規定があり、本科目は当該分野の一つとして位置づけられている。		
授業の内容	病理学は、病気のあらゆる側面を包含している。病気は、遺伝子作用の異常、生理学的生化学的機能の異常、細胞、組織、臓器構造の異常のこれらすべてが関与して発症する。この3つの異常について特に消化器系の主な疾患（ヘリコバクター感染、肝炎、クローン病、潰瘍大腸炎、肝臓、胃癌、大腸癌）で考察する。さらに腫瘍に関しては、前癌性病変ならび境界病変を含めて分子病理学的に形態的異常と遺伝子異常について病理診断の面からも考察する。		
成績評価の方法	疾患に関するレポート提出とその発表により合否を決める。		
テキスト	教科書 Kumar et al 「Basic pathology」 Sunders 2003		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	上記の参考書を分担して読んで行くので十分予習をして出席する。		

授業科目名	病理学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	嶋本 文雄		
研究室の場所	広島キャンパス 1426研究室		
オフィスアワー	特になし。在室中はいつでも可能		
授業の形式・方式	セミナー形式		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	DMH化学発癌 大腸癌 組織発生 ACF		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	大腸DMH発癌における発癌方法、標本作成、化学発癌の特徴、Initiation, promotion, progressionについて総論的に学び、実際の大腸癌の組織発生を分子病理学的に考察する。		
授業の内容	種々の条件でDMH発癌ラットでつくられた標本を用い、経時的な組織変化、炎症、再生、ACF、腺腫、腺癌について学ぶ。それらの形態変化における粘液形質の変化、遺伝子変化を実際にしらべる。		
成績評価の方法	講義ならびに実験の出席にて評価する。		
テキスト	ROBBINS Basic Pathology		
参考文献	よくわかる病理学		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	腫瘍病理学的総論を予習しておく		

授業科目名	病理学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	嶋本 文雄		
研究室の場所	広島キャンパス 1426研究室		
オフィスアワー	特になし。在室中はいつでも可能		
授業の形式・方式			
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	化学発癌 癌予防 生活習慣		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	生活習慣病の予防は、多くの発癌予防と共通し、日常の食習慣、運動が重要な点になっている。そのような背景において、嗜好品であるコーヒー、アルコール、さらに野菜におけるファイトケミカル等の発癌抑止について、動物実験のデータをもとに学ぶ。		
授業の内容	種々の実験系について、動物実験で得られたデータ、実際の顕鏡による組織観察から講義実習をする。		
成績評価の方法	講義、実習の出席、そこでの討論によって評価する。		
テキスト	論文を用意する		
参考文献	論文を用意する		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	病理学研究Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	嶋本 文雄		
研究室の場所	広島キャンパス 1426研究室		
オフィスアワー	いつでも可		
授業の形式・方式	セミナー形式で、それぞれのテーマに関する論文を抄読する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	病理学、病気、遺伝子異常、機能異常、細胞組織異常、分子病理学的形態的異常、病理診断		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	各自の研究テーマに関する論文をよんでそれぞれの研究をまとめることを、目標とする。		
授業の内容	それぞれのテーマにおける腫瘍発生にかんする分子病理学的考察について、講義指導する。		
成績評価の方法	修論のまとめを提出		
テキスト	Kumar et al 「Basic pathology」 Sunders 2003		
参考文献	Basic pathology		
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)			

授業科目名	細胞生化学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	江島 洋介		
研究室の場所	広島キャンパス 1526研究室		
オフィスアワー	授業開始日以降に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業および演習形式。配付資料教材(和文)に基づく対面授業と、配布資料教材(英文)に基づく講読演習形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。対面授業2回に対して、この内容に則した英文資料を講読する演習を1回行う。学生は、授業に出席し、講読演習に参加することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	生体分子, 糖, 脂質, タンパク質, 核酸, ビタミン, ホルモン		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、生化学についての基本知識をもつことを想定して授業を進める。本科目の目標は、「生体構成分子」について、その基礎知識を再確認するとともに、より発展的な内容や最近の知見について学び、また英文資料の講読を通じて、その理解を深めることである。本科目の履修を通じて、生体・細胞の化学的基礎、さまざまな生命現象への生体構成分子の関わりを理解する。また、生化学(生体分子)の領域の中で自らの研究テーマを位置づけ、研究を計画・実施し、また研究成果を論文としてまとめるための基礎を修得させることができる。本科目は、人間文化化学専攻の健康管理化学研究分野に区分されている。		
授業の内容	初回の講義では、全体への導入として「元素」からみた生体分子の特性について解説する。その後、生体・細胞を構成する四つの物質群(糖、脂質、タンパク質、核酸)について、それぞれ2回の講義で解説し、1回の英文資料の講読を通じて理解を深める。講義においては、それぞれの物質の化学的性質、種類、生体における役割、生命現象との関わり、最近の知見等について、各物質につき2回の講義で解説する。英文資料には、'Harper's Illustrated Biochemistry'を用い、それぞれの物質に関連の深い章を講読する。応用的な内容として、生体微量成分(主にビタミン)、シグナル因子(ホルモン、増殖因子)についても解説する。		
成績評価の方法	期授業への出席と講読演習への参加70%、レポート30%の割合で評価する。レポート課題は授業の中で提示する。		
テキスト	『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する		
参考文献	江島洋介『図解生化学』オーム社、2008。Murray R.K. et. al. 'Harper's Illustrated Biochemistry 27th edition' McGraw-Hill。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			



授業科目名	細胞生化学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	江島 洋介		
研究室の場所	広島キャンパス 1526研究室		
オフィスアワー	授業開始日以降に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業および演習形式。配付資料教材(和文)に基づく対面授業と、配布資料教材(英文)に基づく講読演習形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。対面授業2回に対して、この内容に則した英文資料を講読する演習を1回行う。学生は、授業に出席し、講読演習に参加することが義務づけられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	代謝, エネルギー代謝, 糖代謝, 脂質代謝, アミノ酸代謝, ヌクレオチド代謝		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、生化学についての基本知識をもつことを想定して授業を進める。本科目の目標は、「代謝」について、その基礎知識を再確認するとともに、より発展的な内容や最新の知見を学び、また英文資料の講読を通じて、その理解を深めることである。本科目の履修を通じて、生体内で起こっている化学反応の詳細と全体像、さまざまな生命現象への関わりを理解する。また、生化学(代謝)の領域の中で自らの研究テーマを位置づけ、研究を計画・実施し、また研究成果を論文としてまとめるための基礎を修得させることができる。本科目は、人間文化化学専攻の健康管理化学研究分野に区分されている。		
授業の内容	代謝(異化と同化)について解説する。3回を1ユニットとし、最初の2回は対面講義、3回目は英文資料の講読を行う。全体は5部から構成され、それぞれの内容は次の通りである。第1部:代謝の概要, 糖代謝(解糖と発酵); 第2部:糖代謝(クエン酸回路, 呼吸鎖, グリコーゲン代謝, 糖新生); 第3部:脂質代謝(脂肪酸の異化と同化, リン脂質の代謝, ステロイドの代謝); 第4部:アミノ酸代謝(窒素の異化, 炭素骨格の異化, アミノ酸の生合成); 第5部:ヌクレオチドと核酸の代謝(ヌクレオチドの異化と同化, 核酸の代謝, 遺伝情報)。英文資料には、'Harper's Illustrated Biochemistry'を用い、それぞれの代謝系に関連の深い章を講読する。		
成績評価の方法	授業への出席と講読演習への参加70%, レポート30%の割合で評価する。レポート課題は授業の中で提示する。		
テキスト	『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	江島洋介『図解生化学』オーム社, 2008。Murray R.K. et. al. 'Harper's Illustrated Biochemistry 27th edition' McGraw-Hill。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	細胞生化学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	江島 洋介		
研究室の場所	広島キャンパス 1526研究室		
オフィスアワー	授業開始日以降に連絡。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	演習形式。テキスト及び配付資料教材に基づく講読演習形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。テキスト(和文)を用いた講読演習と研究論文(英文)に基づく講読演習を併行して進める。授業日程の中で、数回のレポート課題を課す。学生は、授業に出席し、講読に参加し、レポートを提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	DNA, RNA, タンパク質, ヒト疾患, がん, 遺伝的多型		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、生化学についての基本知識をもつことを想定し、テキストと研究論文を素材にして講読演習形式で授業を進める。本科目の目標は、ヒト疾患の分子機構を理解するための基礎として、分子生物学の基本的な内容を学び、分子生物学に関連する研究論文に触れて、その理解を深めることである。また、ヒトの疾患にかかわる最近の研究論文を紹介し、セミナー形式でプレゼンテーションする場も設ける。これによって自らが研究を計画し、研究成果を論文としてまとめ、あるいは発表するための基礎を修得することができる。本科目は、人間文化化学専攻の健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	分子生物学の基本的な内容について解説し、関連論文の講読を行う。4回を1ユニットとし、最初の3回はテキスト(和文)を用いた解説と講読、4回目は研究論文(英文)の講読を行う。全体は3部(DNA, RNA, タンパク質)から構成され、それぞれの内容は次の通りである。 第1部:物質としてのDNA, DNA複製, DNA損傷とDNA修復, 遺伝情報とゲノム, 突然変異; 第2部:物質としてのRNA, 転写, RNAプロセッシング, 転写の制御機構, RNAの多様な機能; 第3部:物質としてのタンパク質, tRNAとリボソーム, 翻訳のメカニズム, 翻訳後修飾, タンパク質の折りたたみと分解, タンパク質の細胞内輸送。最後の3回では、ヒト疾患に関わるテーマ(遺伝疾患, がん, 遺伝的多型)に関連のある研究論文(英文)の講読を行う。		
成績評価の方法	授業への出席と講読演習への参加70%, レポート30%の割合で評価する。レポート課題は授業の中で提示する。		
テキスト	江島洋介『図解分子生物学』オーム社, 2005。『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献	Alberts, B. et. al. 'Molecular Biology of the Cell, 5th edition', Garland Science, 2008.		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	細胞生化学研究Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	江島 洋介		
研究室の場所	広島キャンパス 1526研究室		
オフィスアワー	授業開始日以降に連絡。場所は担当教員室。		
授業の形式・方式	演習形式。テキストに基づく講読演習形式で実施する。授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。授業日程の中で、数回のレポート課題を課す。学生は、授業に出席し、講読に参加し、レポートを提出することが義務付けられる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化化学専攻, 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	遺伝学, 遺伝子, ゲノム, 染色体, 集団遺伝学, 進化遺伝学, 突然変異		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、生化学についての基本知識をもつことを想定し、テキストを用いた講読演習形式で授業を進める。本科目の目標は、ヒト疾患の分子機構を理解するために必要な、遺伝学と分子遺伝学の知識を体系的に学ぶことである。遺伝学・分子遺伝学に関する最近の研究論文を紹介し、セミナー形式でプレゼンテーションする場も設ける。これによって自らが研究を計画し、研究成果を論文としてまとめ、あるいは発表するための基礎を修得することができる。本科目は、人間文化化学専攻の健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	テキストの構成に従い、5部において講読を進める。それぞれの内容と授業の回数は下記の通りである。第1部「遺伝学の基礎」では、遺伝学の基本概念と全体像を学ぶ(2回)。第2部「DNA, 遺伝子, ゲノム」では、分子遺伝学を学ぶ(2回)。第3部「遺伝の分子機構」では、アレル, エピスタシス, 連鎖, 組換えなど遺伝学に固有の概念と、染色体に基づく遺伝現象を学ぶ(3回)。第4部「集団と進化の遺伝学」では、集団遺伝学と進化遺伝学の数理モデルを学ぶ(3回)。第5部「遺伝学からみた生命現象」では、発生, 免疫, 感覚などの生命現象を遺伝学の観点から学ぶ(3回)。第5部「遺伝学の基本技術とモデル生物」では、実験技術と実験材料の側面から遺伝学を学ぶ(2回)。		
成績評価の方法	講読演習への参加40%, レポート30%, 発表30%の割合で評価する。レポート課題は授業の中で提示する。		
テキスト	江島洋介『ジェネティクスー新しい遺伝学がわかるー』オーム社, 2009。『複写資料教材』を授業開始時に無料で配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)			

授業科目名	免疫生物学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	藤井 保		
研究室の場所	広島キャンパス 1523研究室		
オフィスアワー	初回の授業の時に連絡(研究室のドアに掲示)。指定時間以外でも、可能な限り随時対応する。場所は担当教員研究室。		
授業の形式・方式	対面授業。授業日程に従って、主に下記の教科書の各章に関する講義及び課題発表形式で実施する。1回の講義につき1章の内容を想定し、授業時間2時間(1回)と学生の自習4時間を想定した授業を行う。幾つかの主要な項目を課題として選定し、当該課題に関する事前学習と授業時間内での発表を履修者に課す。発表資料はレポートとして提出させる。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	自然免疫, 獲得免疫, 免疫系, 体液性免疫, 補体, 細胞性免疫, アレルギー疾患, 食物アレルギー, 感染防御, 移植免疫, 自己免疫疾患, 後天性免疫不全症候群 (AIDS), 免疫系の進化		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では、免疫と生体防御について基礎的知識を有している学生を対象にして、免疫反応の仕組みや免疫系の進化に関する理解を深化させることを目指す。本科目の目標は、履修学生が免疫学の専門的内容について、教科書の図表等を活用し、他者に基本的な事項について説明できる力を身に付けさせることである。本科目は、人間文化学専攻の健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	免疫系は、細菌やウイルスなどの病原微生物に対する生体防御機構としての働きだけでなく、生体内に出現する異常な細胞に対する生体監視機能をも担っている。そこで、自己と非自己を認識し、個体の統一性や恒常性を維持するための機構について、分子及び遺伝子レベルで講述する。また、免疫系が長い進化の過程で生物が獲得してきた機能であることについて、主要組織適合遺伝子複合体のゲノム構造とゲノムパラロジー、さらに、その原型を無脊椎動物に見出すことができる補体レクチン経路などを取り上げて考察を行う。		
成績評価の方法	課題発表50%、課題レポート50%の割合で評価する。課題の提供・選択に関しては、履修者の希望を考慮して決定する。課題レポートの提出期限は、当該課題に関する発表の翌週とする。		
テキスト	高津聖志・清野宏・三宅健介 監訳 『Immunology, 7th Ed., Male・Brostoff・Roth・Roitt 免疫学イラストレイテッド [原著第7版]』南江堂, 2009。		
参考文献	授業開始時に紹介する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	履修予定者は、教科書の第1章を精読し、1回目の授業に臨むこと。授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	運動生理学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	福場 良之		
研究室の場所	広島キャンパス 1623研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日11時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	対面授業。 授業日程に従って、主にビジュアル・エイドを用いた講義形式で実施する。 講義全体は、大きく3つのテーマによって構成され、ほぼ5回ずつの予定で講義する。 各テーマに対して1つのレポートを課す。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	身体運動, 人体生理学, 体力, フィットネス, 健康, 高齢化, 環境生理学, ライフスタイル		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目では、健康づくりを目的とした運動やスポーツを支える身体メカニズムについて主に人体生理学の立場から理解することを到達目標とする。これによって、スポーツ医学の諸問題を解決するための基礎が身に付く。本科目は、人間文化学専攻・健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	この科目では、健康づくりを目的とした運動やスポーツを支える身体メカニズムについて、人体生理学の立場から詳細に学ぶ。大きなテーマは、1：運動と神経-筋系、2：運動と呼吸系、3：運動と循環系、である。これらの内容に、随時、生活習慣病に果たす運動の役割といった視点を加えて理解する。		
成績評価の方法	3回実施する課題レポート(30点×3回)と出席(10点)を総合的に判断して評価する。		
テキスト	教科書は使用しない。『複写資料教材』を適宜、授業時に配布する。		
参考文献	勝田茂編著『入門運動生理学 第3版』、杏林書院、2007。池上晴夫著『スポーツ医学 I 病気と運動』、朝倉書店、1994。『やさしい生理学 第6版』彼末一之・能勢博編集、南江堂、2012。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。履修者は、授業の中で、必要に応じて適宜、紹介する参考著書・文献を、積極的に読むことをすすめる。なお、社会人大学院生の授業実施については、個別の勤務事情に応じた対応(履修前に個別に面談し、授業の形式についての話し合い)を行う予定である。		

授業科目名	運動生理学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	福場 良之		
研究室の場所	広島キャンパス 1623研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日11時から13時，場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	演習形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	身体運動，人体生理学，生体応答，呼吸，循環，エネルギー代謝，骨格筋		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	この科目では，運動時のエネルギー代謝について，特に酸素の流れ（外界から筋細胞ミトコンドリアまでのO <sub>2</sub> -cascade）を支えるメカニズムについて，理解することが目標である。本科目は，人間文化学専攻・健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	運動時の呼吸循環系調節メカニズムに関する基礎的な研究領域において，最新の文献抄読を中心としたディスカッション形式の演習を行う。この演習では，運動時の酸素運搬系を規定する基礎的な生理的メカニズムについての理解といった具体的な研究テーマを設定し，研究背景の把握とその分析に基づく総説的なまとめ方を演習する。		
成績評価の方法	出席状況ならびにプレゼンテーション，課題レポートの総合的な評価によって判定する。		
テキスト	教科書は使用しない。 参考文献を適宜，授業時に配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・禁止行為等)	授業に関する連絡方法は，正式には教務課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	運動生理学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	福場 良之		
研究室の場所	広島キャンパス 1623研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日11時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	ゼミ形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	身体活動, 運動生理学, 体力, 疫学, 統計, 保健, 健康寿命		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目の目標は、運動生理学的な基礎知識が、健康寿命延長を念頭においた身体活動の果たす役割といった健康科学的な応用面へいかに関連するかを、体系的に理解することである。本科目は、人間文化学専攻・健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	健康と運動・体力のかかわりに関する応用的な研究領域において、最新の文献抄読を中心としたディスカッション形式の演習を行う。この演習では、受講者の関心に応じて、健康寿命延長を念頭においた、高齢者が自立した生活を送るために必要な骨格筋の形態や機能水準についての理解、全身性・局所性の肥瘦度の評価と運動による効果についての理解、などといった具体的な研究テーマを設定し、研究背景の把握とその分析に基づく総説的なまとめ方を演習する。その中で、健康管理科学分野における疫学調査で必要となる統計的な解析手法の実際もあわせて学ぶ。		
成績評価の方法	出席状況ならびにプレゼンテーション、課題レポートの総合的な評価によって判定する。		
テキスト	教科書は使用しない。 参考文献を適宜、授業時に配布する。		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示、学生に対する授業内での連絡によって行う。		

授業科目名	運動生理学研究Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	福場 良之		
研究室の場所	広島キャンパス 1623研究室		
オフィスアワー	毎週月曜日11時から13時，場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	ゼミ形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	運動生理学		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	この科目の目標は、受講者の具体的な修士論文のテーマの特に考察に対する運動生理学的理解を、ディスカッション形式で高めることである。本科目は、人間文化学専攻・健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	修士論文研究の完成を目指して、具体的なテーマについての論文の講読や専門書の輪講を行いながら、議論する。		
成績評価の方法	出席状況と授業中の議論に対する評価によって判定する。		
テキスト	なし		
参考文献			
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡方法は、正式には教務課の掲示，学生に対する授業内での連絡によって行う。		



授業科目名	トレーニング科学特論		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦 朗		
研究室の場所	広島キャンパス 1515研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約		
授業の形式・方式	対面形式の授業。「持久性トレーニング方法の理論と実際」と「筋力トレーニングの理論と実際」という2つのテーマによって15回の授業を前半と後半に分け、講義形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	健康管理, 体力, スポーツ, 持久性トレーニング, 筋力トレーニング, 最大酸素摂取量, 無酸素性作業閾値, 疲労性作業閾値, 最大筋力, 筋横断面積		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目では、身体活動性を支える体力を向上し、健康の保持・増進に寄与する体力トレーニングについて、「持久性トレーニングの理論と実際」と「筋力トレーニングの理論と実際」の二つに分けて過去の研究成果に関する知識を身につけることを目標とする。そのために、それぞれ2つのテーマについて過去の研究成果をレビューすることによって理解を深め、疑問を整理して論議する。本科目は、人間文化学専攻の健康管理学健康分野に位置付けられる。		
授業の内容	テーマ1「持久性トレーニングの理論と実際」：体力指標として、最大酸素摂取量・無酸素性作業閾値・疲労性作業閾値といった全身性の持久性作業能をとりあげ、それらに対するトレーニング効果について論述する。特に、全身性の高強度運動時の発揮パワーと運動継続時間の関係から推定される疲労性作業閾値と無酸素性作業容量に対するトレーニング効果については、論文を講読しながら、その基礎と応用について詳説する。テーマ2「筋力トレーニングの理論と実際」：①高齢者の自立した生活の維持に関わると考えられる筋の加齢による機能低下を軽減するための筋力トレーニング方法やその効果を解説することで、生活密着型の体力からみた健康寿命延長の方策を議論する。②競技力向上のための筋力トレーニングについても、その方法と効果について解説する。本科目は、人間文化学専攻の健康管理学健康分野に位置付けられる。		
成績評価の方法	課題レポートの評価によって判定する。課題レポートは、テーマごとに設定する。		
テキスト			
参考文献	テキストは指定しない。最大酸素摂取量・無酸素性作業閾値・疲労性作業閾値の規定要因およびトレーニング効果、筋力の加齢変化とトレーニングに関する論文や資料を配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は、教学課の掲示によって行う。なお、社会人大学院生の授業実施については、個別の勤務事情に応じた対応をすることも可能である。その場合は、履修前に面談を行い、授業の形式・方法について話し合うこととする。		

授業科目名	トレーニング科学研究 I		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦 朗		
研究室の場所	広島キャンパス 1515研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	文献抄読によるディスカッション形式の演習		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	健康, 体力, 運動, 持久性トレーニング, 筋力トレーニング, 研究方法		
授業の目標とカリキュラム上の位置付け	本科目の目的は、身体トレーニング（持久性トレーニングと筋力トレーニング）が、ヒトの体力や健康の維持増進に及ぼす効果について、体系的に理解することである。本科目は、人間文化学専攻・健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	健康・体力と身体トレーニングの関係について、論文（総説を中心に）を抄読し、研究背景の全体像をまとめ、実験の仮説の立て方について理解する。また、先行研究が、仮説検証のためにどのような実験デザインや方法を用いたかを学ぶために、原著論文をクリティカル・リーディングし、ディスカッションする。そのような演習を通じて、トレーニング科学に関する研究手法を理解し修得していくことを目指す。		
成績評価の方法	授業への参加状況とプレゼンテーションを70%とし、レポート30%として総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献	テキストは使用しない。抄読用の論文等を適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は、教学課の掲示によって行う。なお、社会人大学院生の授業実施については、個別の勤務事情に応じた対応をすることも可能である。その場合は、履修前に面談を行い、授業の形式・方法について話し合うこととする。		

授業科目名	トレーニング科学研究Ⅱ		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦 朗		
研究室の場所	広島キャンパス 1515研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	文献抄読によるディスカッション形式の演習		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	健康, 体力, 持久性トレーニング, 筋力トレーニング, 研究方法		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目的は、身体トレーニング(持久性トレーニングと筋力トレーニング)が、ヒトの体力や健康の維持増進に及ぼす効果について、体系的に理解し、トレーニング科学研究の研究手法を修得することである。本科目は、人間文化学専攻・健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	健康・体力と身体トレーニングの関係について、最新の文献の抄読によるディスカッション形式の演習を行う。受講者の関心に応じて、論文を抄読し、研究背景をまとめ、実験の仮説を立てるための具体的な方法について演習する。また、先行研究が、仮説検証のためにどのような実験デザインや方法を用いたか、またその結果の解釈と論議の進め方をクリティカル・リーディングし、ディスカッションする。そのような演習を通じて、トレーニング科学に関する研究手法を理解し修得していくことを目指す。		
成績評価の方法	授業への参加状況とプレゼンテーションを70%とし、レポート30%として総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献	テキストは使用しない。抄読用の論文等を適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は、教学課の掲示によって行う。なお、社会人大学院生の授業実施については、個別の勤務事情に応じた対応をすることも可能である。その場合は、履修前に面談を行い、授業の形式・方法について話し合うこととする。		

授業科目名	トレーニング科学研究Ⅲ		
担当教員氏名(助手氏名)	三浦 朗		
研究室の場所	広島キャンパス 1515研究室		
オフィスアワー	毎週火曜日11時から13時、場所は担当教員研究室。これ以外の面談は要予約。		
授業の形式・方式	ゼミ形式で実施する。		
単位数(時間数)	2単位 (30時間)	学科または専攻毎の必修・選択の別	選択
履修要件	総合学術研究科人間文化学専攻 1・2年次対象		
免許等指定科目			
キーワード	トレーニング科学, 研究方法, 論文のまとめ方		
授業の目標と カリキュラム上の位置付け	本科目の目的は、受講者の修士論文の結果と考察に関するトレーニング科学および生理学的な理解を、ディスカッション形式で深めることである。そのことにより、論文をまとめる技能を身につけることが最終目標である。本科目は、人間文化学専攻・健康管理科学研究分野に区分されている。		
授業の内容	受講者の修士論文の「考察」や「論議」をまとめるために、関連する論文や専門書を抄読し、ディスカッションする。トレーニング科学研究Ⅰ・Ⅱとあわせて、修士論文の背景・目的・方法・結果・論議の各パートを関連付けてまとめるための、アカデミック・ライティングのスキルを習得させる。		
成績評価の方法	授業への参加状況とプレゼンテーションを70%とし、レポートを30%として総合的に評価する。		
テキスト			
参考文献	テキストは使用しない。抄読用の論文等を適宜配布する。		
備考 (履修上のアドバイス・ 禁止行為等)	授業に関する連絡は、教学課の掲示によって行う。なお、社会人大学院生の授業実施については、個別の勤務事情に応じた対応をすることも可能である。その場合は、履修前に面談を行い、授業の形式・方法について話し合うこととする。		